

ニ從事スル官吏又ハ吏員ノ要求アルトキハ之ヲ揭示スヘシ
第三條 左ニ掲クル者ハ警察醫又ハ指定シタル醫師ノ健康診
斷ヲ受クヘシ

一、旅店、下宿屋、貸座敷、料理店、飲食店、理髪店其ノ

他客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於ケル從業者

二、看護婦、鍼灸灸術按摩術營業者、藝妓其ノ他直接客ニ

接スル業務ニ從事スル者

三、電車、輕便鐵道、營業用ニ供スル自動車ノ乗務員

四、箸、揚子、齒刷子其ノ他之ニ類スルモノノ製造又ハ販

賣ニ直接從事スル者

五、前各號ノ外業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ從事スル者

又ハ病毒蔓延ノ虞アル場所ニ居住シ若ハ其ノ場所ニ於

テ職業ニ從事スル者ニシテ必要アリト認ムル者

前項健康診斷ノ日時場所其ノ他之カ施行ニ必要ナル事項ハ

其ノ都度告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第一項ノ業務ニ從事スル者結核患者ナルトキハ其ノ病症ノ

程度ニ依リ從業ヲ禁止スルコトアルヘシ

一志郡榑原村大字榑原字濱田

三重郡富田町大字茂福字住吉、外新起、大濱

津市大字津興字港中道北、港中道南、北阿漕田、南阿漕

田

津市大字賢崎町

津市大字津中川原字北高洲、南高洲

一志郡矢野村字海面高洲

度會郡二見町大字江村字鮫川、堅田、高松、大多茂、茶屋

後、九段田、萬町

第九條 前條ノ指定地域内ニ於テ貸家貸間ヲ爲ス者竝寢具又

ハ家具類ヲ貸與スル者ニハ規則第四條第一項ノ規定ヲ準用

ス

第十條 本令第八條ノ指定地域外ニ於ケル旅店、下宿屋、貸

座敷營業者ハ規則第四條第一項ニ準シ病毒傳播防止ノ方法

ヲ講スヘシ

第十一條 結核豫防ノ爲消毒所ヲ設置シ公衆ノ需ニ應ジ消毒

ヲ施行セムトスルトキハ豫メ其ノ設計並消毒ノ方法及消毒

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

第四條 從業ヲ禁止セラレタル結核患者治療シタルトキハ醫
師ノ診斷書ヲ添ヘ其ノ解除ヲ申請スヘシ

第五條 古著、古蒲團、古本、紙屑、襪、飲食物其ノ他ノ

物件ニシテ結核病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アルモノアルトキ

ハ其ノ賣買授受ヲ制限シ若ハ禁止シ其ノ物件ノ消毒若ハ廢

棄ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第六條 貸本營業者ハ所轄警察官署ノ指示アリタルトキハ營

業用ノ書冊ヲ規則第六條ノ規定ニ準シ消毒スヘシ

第七條 規則第二條第一項ノ規定ニ依リ唾壺ヲ配置スヘキ場

所ヲ左ノ通指定ス

神社、寺院、教會所、公會堂、集會所、圖書館、銀行、醫

師及齒科醫師ノ診療所、商品陳列場、取引所、貸座敷、飲

食店、合宿所、遊藝場、觀物場、展覽會場、乗客用船舶、

幼稚園、感化院、教育院

第八條 規則第四條ノ規定ニ依リ鑛泉湯海水浴場轉地療養所

ノ地域ヲ左ノ通指定ス

三重郡菟野村字湯ノ山

料金等ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 古著、古寢具類、古本、襪等ノ賣買ヲ業トスル

者ハ營業者相互間ニ於テ授受スル場合ヲ除ク外規則第六條

ノ規定ニ準シ之ヲ消毒スルニ非レハ讓渡スルコトヲ得ス但

シ官公署若ハ官公署ノ公認シタル消毒所ノ證明書ヲ有スル

者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 施行令第一條ノ規定ニ依ル補償金ノ交付申請書ニ

ハ左ノ事項ヲ具備スヘシ但シ所有者ト使用者ト異ル場合ハ

雙方連署ヲ要ス

一、申請者ノ住所氏名及建物ノ所有者又ハ使用者ノ別

二、損害見積額内譯明細書ヲ

三、制限又ハ禁止セラレタル建物ノ種類及其ノ坪數

四、所有者使用者ヲ除ク外ハ建物ニ關シ權利ヲ有スル者ノ

住所氏名及其ノ權利ノ種類

第十四條 施行令第三條ノ規定ニ依ル市町村長ノ爲ス公告期

間ハ四十日間トス

第十五條 施行令第十六條ノ規定ニ依ル生活費補給ノ程度方

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫
備考 肺炎加答兒ハ男女別ニ總數ヲ備考欄ニ記入スルコト

●結核患者生活費補助規程

(大正十年二月十八日)
告示第六十六號

結核豫防法第十一條ノ規定ニ依ル結核患者生活費補助規程左ノ通之ヲ定ム

結核患者生活費補助規程

- 第一條 結核豫防法施行令第十三條ニ該當スル者生活費ノ補助ヲ受クムトスルトキハ別紙第一號様式ノ申請書ニ戸籍簿本ヲ添ヘ本人又ハ代理人ヨリ知事ニ申請スヘシ
- 第二條 生活費ノ補助ハ左ノ範圍ニ於テ之ヲ支給ス

市街地 市制施行地並桑名町、松坂町、 鳥羽町、上野町、尾鷲町、木 本町	準市街 ノ地 戸口稠密或物資高價ナル町村	補給ヲ受ケル者				
		一人ナルト キ	二人ナルト キ	三人ナルト キ	四人ナルト キ	五人以上ナ ルトキ
其ノ他 右以外ノ村落	以貳拾八 内錢	以參拾貳 内錢	以六拾 内錢	以七拾八 内錢	以九拾六 内錢	以壹圓拾 内錢
		以參拾錢以 内	以五拾貳 内錢	以七拾貳 内錢	以八拾八 内錢	壹圓以 内
		以四拾八 内錢	以六拾六 内錢	以八拾 内錢	以九拾 内錢	

年齢十歳未満ノ者ニ對スル生活費ノ補助額ハ前項各號ノ半額トス

特別ノ事由アリト認ムルトキハ前各項ニ拘ラス特ニ増額支

給スルコトアルヘシ

第三條 生活費補助ノ方法ハ從業禁止又ハ療養所ヘ入所ノ翌日ヨリ起算シ補助ノ廢止又ハ停止ノ當日迄日割計算ニ依リ

之ヲ支給ス其ノ補助ノ停止ヲ解除シ若ハ停止期間満了シタルトキ亦同シ

第四條 生活費補助ノ許可ヲ受ケタル者ハ別紙第二號様式ニ依リ毎月末日其ノ月分ヲ請求スヘシ但シ其ノ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ補助ヲ廢止若ハ停止セラレタルトキハ期日ニ拘ラス之ヲ請求スルコトヲ得

第五條 左記各號ノ一ニ該當シ其ノ他生活費補助ノ事由消滅シタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

- 一 療養所ヘ入所ヲ命セラレ若ハ從業ヲ禁止セラレタル者退所又ハ死亡シタルトキ
 - 二 從業禁止ヲ解除セラレタルトキ
 - 三 從業ヲ禁止セラレタル者ニシテ縣外ニ轉出シタルトキ
- 第六條 左記各號ノ一ニ該當シ其ノ他生活費補助ノ事由ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ補助ヲ廢止シ若ハ増減スルコトアルヘシ

一 結核豫防法施行令第十三條第二號又ハ第三號ニ該當スル者死亡シ若ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキ

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

- 二 自活ノ途ヲ得又ハ他ノ扶助ヲ受ケルニ至リタルトキ
 - 三 在來ノ補助額ヲ以テ生活スル能ハサルニ至リタルトキ
- 第七條 生活費ノ補助ヲ受ケル者左記各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ補助ノ全部若ハ一部ヲ停止ス
- 一 拘留又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ未決拘留ノ場合亦同シ
 - 二 行衛不明トナリタルトキ
 - 三 入營入團又ハ軍事召集ニ應ジタルトキ
 - 四 公費ノ救護ヲ受ケタルトキ

第八條 前三條各號(第五條第二號ヲ除ク)ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ本人戸主又ハ法定相續人ヨリ五日以内ニ其ノ旨届出ツヘシ

第九條 前條ノ届出ヲ怠リ又ハ欺罔ノ手段ニ依リ不當ニ補助金ノ支給ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ補助金ノ全部又ハ一部ヲ返還セシメ爾後ノ支給ヲ廢止若ハ停止スルコトアルヘシ

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

(第一號樣式)

生活費補給申請書

何郡何市何町村大字何番地
 戸主(又ハ戸主トノ續柄)職業

右者大正何年何月何日結核豫防法第四條第一項第二號(又ハ同法第七條第一項)ニ依リ從業禁止(又ハ入所)ヲ命
 セラレ候ニ就テハ(職業ノ途ヲ失ヒ生活不能トナレル事實ヲ詳具スルコト)相當生活費補給相成度結核患者生活
 費補給規程第一條ニ依リ別紙戸籍謄本相添ヘ此段申請候也
 年月日

三重縣知事宛

(第二號樣式)

請求書

一金何圓何拾錢

何月分生活費補給金

至自 月日	期 間 日 數	一日分定額		計 金
		十歲以上 十歲未滿	人 員	

右
 氏
 名

右請求候也

年月日

住所

氏
 名

三重縣知事宛

●肺結核豫防ニ關シ唾壺配置ノ件

(明治三十七年三月二十五日)
 (訓令甲第二十七號)

郡市役所

警察署

同分署

町村役場

明治三十七年(二月)内務省令第一號ヲ以テ肺結核豫防ニ關ス
 ル規則ヲ發布セラレ尙ホ之ニ關シ明治三十七年(三月)三重縣

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

●恩賜財團濟生會肺結核患者治療手續

(大正三年三月二十日)
 (告示第九十九號)

恩賜財團濟生會肺結核患者治療手續左ノ通相定ム

恩賜財團濟生會肺結核患者治療手續

令第二十五號三重縣諭告第一號及三重縣訓令甲第二十六號ヲ
 發布シタリ就テハ此レ等法令ノ趣旨ニ則リ一般ニ之ヲ督勵ス
 ルト同時ニ各官公署ニ於テモ亦適當箇數ノ唾壺ヲ配置スヘシ

- 第一條 郡市醫師會ハ肺結核患者ヲ收容スヘキ病床一個ヲ設置シ郡市長ヘ通報スルモノトス
- 第二條 郡市長ハ其ノ部内ニ於ケル肺結核患者中ニ就キ輕症者一名ヲ指定シ順次之ヲ病床ニ收容セシムルモノトス
- 第三條 肺結核患者收容日數ハ當該醫師ヨリ翌月五日限り郡市長及郡市醫師會長ヘ通報スルモノトス
- 郡市長ハ前項ノ通報ヲ調査シ十日限更ニ知事ニ報告スヘシ

●癩豫防ニ關スル法令施行手續

(明治四十二年四月二十四日)

訓令甲第十八號

大正七年七月訓令甲第百二十六號改正

郡	役	所
警	察	署
警	察	分
署	所	
市	役	所
町	村	役
場		

癩豫防ニ關スル法令施行手續左ノ通定ム

- 第一條 癩豫防ニ關スル法令施行手續
- 第二條 明治四十年法律第十一號第一條ノ届出又ハ同第九條ノ檢診ニ因リ患者ヲ發見シタルトキハ第一號様式ニ依リ速ニ報告スヘシ
- 第三條 警察署ニ於テ明治四十年法律第十一號第九條第一項ニ依リ檢診ヲ行ハムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ指揮ヲ受クヘシ
- 第四條 警察官署ハ第二號様式ニ依リ患者名簿ヲ調製シ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ
- 第五條 警察官署ハ前項ノ名簿ハ秘密ニ取扱ヒ且鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ保管スヘシ
- 第六條 警察官署ハ療養所ニ送致スヘキ患者ヲ除ク外住所又ハ居所ヲ移轉シタル患者アルトキハ速ニ報告シ其ノ移轉地所轄外ニ係ルトキハ患者名簿ヲ添ヘ移轉地所轄警察官署ニ通知スヘシ
- 第七條 警察官署ニ於テ患者又ハ其ノ同伴者若ハ同居者ヲ一時救護スル場合ハ署内其ノ他便宜ノ場所ヲ以テ救護所ニ充

ツヘシ

警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ被救護者ヲ其ノ發見地市町村長ニ引渡スヘシ

前項ノ引渡ヲ受ケタル市町村長ハ便宜ノ場所ニ於テ之ヲ救護スヘシ

第六條 警察官署ハ患者ヲ療養所ニ送致スヘキ通達ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 巡查ヲ附シ患者ヲ指定警察官署又ハ療養所ニ直送スルコト
- 二 第三號様式ノ送致書ニ所要ノ記入ヲ爲シ護送巡查ヲシテ携帶セシムルコト
- 三 護送ハ汽車船舶ノ便アル地ニ在リテハ可成之ニ依リ其ノ之ニ依リ難キ場合ハ步行セシメ步行ニ堪ヘサル者ニ限り車駕ノ類ヲ用ウルコト但シ汽車船舶ノ便ニ依ル場合ハ豫メ驛長又ハ同漕店等ニ協商シ置クモノトス
- 四 護送途中宿泊ヲ要スルトキハ豫メ其ノ地警察官署ニ協議シ便宜ノ場所ヲ選ムコト

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

四百六十三

第七條 患者ノ輸送具其ノ他消毒ヲ要スル物件ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外發送地警察官署ノ通知ニ依リ到着地警察官署ニ於テ之ヲ消毒スヘシ

第八條 癩又ハ其ノ疑アル患者ノ檢診料(診斷書料)ハ患者一人ニ付壹圓五拾錢以内トス

第九條 患者及其ノ同伴者又ハ同居者ノ救護ニ關シ雜替支辨スヘキ費用ハ特別ノ事情アル場合ノ外左ノ各號ニ依ルヘシ

- 一 食料 一度金八錢以内
- 二 雜費 被服寢具借入料其ノ 一日金拾五錢以内
他薪炭油等ノ諸費
- 三 救護所借入料 一日金拾五錢以内
- 四 消毒藥費 實費
- 第十條 市町村ニ於テ雜替支辨シタル費用ニシテ被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル場合ニ於テ當廳ニ其ノ辨償ヲ求ムルトキハ費用計算書及證書類ヲ添附スヘシ
- 第十一條 療養所ニ送致スル患者ノ費用支出額ハ特別ノ事情アル場合ノ外左ノ各號ニ依ル

一度金拾五錢以内

第十一編 警察 第七章

衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

四百六十四

- 二 宿泊料(夕食及朝食)
- 三 汽車汽船賃
- 四 車賃

一夜金四拾五錢以内
三等實費
實費

第十二條 護送巡查前條ノ費用ヲ繰替支辨シタル場合ニ於テ
其ノ辨償ヲ求ムルトキハ費用計算書及證據書類ヲ添付スヘシ

第一號様式

六寸

乙		甲		第 號
告 報 考	歸 轉 考	者 患 者	癩 者	
		患者 氏名	轉 歸	警 察 署
		明治 年 月 日	明治 年 月 日	
		死體ノ 處置	死全 亡治	
		備 考		

四

三

六寸

甲										第 號	
報 見 發 者 患 癩											
病 況	所 一 時 救 護 ノ 場	診 定 醫	届 出	診 定	發 病	年 齡	氏 名	戶 主 ノ 職 業 及 擔 柄	同 住 所	患 者 本 籍	
	縣	縣府	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日				縣府 市郡 村町 大字	縣府 市郡 村町 大字	警 察 署
	市郡 村町 大字	市郡 村町 大字									
	番	番									

四

第十二編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

四百六十五

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

四百六十六

告	
扶養義務者	縣
扶養者ノ資力	市郡
備考	村大字 番

取扱例

- 一 報告用紙ハ帳簿トナシ表紙ヲ附シ備ヘ置クヘシ
- 一 番號ハ部内患者ノ發生順次ニ依リ記入スヘシ
- 一 乙號番號ハ甲番號ト同一ナルヲ要ス
- 一 死體檢案ニ依リ發見シタルモノハ甲乙號ヲ同時ニ差出スヘシ
- 一 扶養義務者ノ資力欄ニハ一時救護ヲ要スヘキ患者ナルトキニ限り明治四十年法律第十一號施行規則第二條第二項但書ニ該當スルヤ否ヤノ事由ヲ記載スヘシ
- 一 患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノナルトキハ其ノ旨ヲ備考欄ニ朱記シ同伴者又ハ同居者アル場合ニ於テハ其ノ氏名等ヲモ同欄ニ併記スヘシ

第二號様式 (用紙美濃) 七寸

第 四分		第 四分		第 四分		第 四分	
發病	診斷	轉歸	療養	療養	轉歸	診斷	發病
(檢案)	(檢案)	(檢案)	(檢案)	(檢案)	(檢案)	(檢案)	(檢案)
明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日
本籍	住所	職族	戶主	職族	戶主	本籍	住所
縣府	縣府	縣府	縣府	縣府	縣府	縣府	縣府
市郡	市郡	市郡	市郡	市郡	市郡	市郡	市郡
村大字	村大字	村大字	村大字	村大字	村大字	村大字	村大字
番	番	番	番	番	番	番	番
備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考
縣府	縣府	縣府	縣府	縣府	縣府	縣府	縣府
市郡	市郡	市郡	市郡	市郡	市郡	市郡	市郡
村大字	村大字	村大字	村大字	村大字	村大字	村大字	村大字
番	番	番	番	番	番	番	番
病況	病況	病況	病況	病況	病況	病況	病況
縣府	縣府	縣府	縣府	縣府	縣府	縣府	縣府
市郡	市郡	市郡	市郡	市郡	市郡	市郡	市郡
村大字	村大字	村大字	村大字	村大字	村大字	村大字	村大字
番	番	番	番	番	番	番	番

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

四百六十七

病況	號			備考
	名住所氏	診定醫	場療所	
	縣府 市郡 村大字 番	縣府 市郡 村大字 番	縣府 市郡 村大字 番	

第三號様式

送致書

原籍住所

癩患者 氏

年月日生

右ハ療養所ニ於テ救護ヲ要スル者ト認メ候條及送致候也

年月日

第三區府縣立外島保養院々長宛

三重縣知事

●癩ニ關スル消毒其ノ他豫防方法

(明治四十二年二月二十三日)
諭告第一號

癩ハ古來本邦各地ニ蔓延シ久シク其ノ病性ヲ誤認セラレタル
モ癩菌ノ發見ニ依リテ其ノ傳染性ナルコトヲ確定セラレタル
モノニシテ主トシテ觸接ニ依リ又ハ患者ノ鼻汁、唾液、潰瘍部
ノ膿汁等ニ汚染シタル物件ヲ介シテ病毒ヲ他ニ傳播スルノ危
險アルモノトス是ヲ以テ明治四十年三月本病ノ豫防ニ關シ法
律第十一號ヲ發布セラレ癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且ツ
救護者ナキモノハ之ヲ府縣ノ療養所ニ隔離シ其ノ他ハ各自ニ
於テ消毒其ノ他豫防方法ヲ行ハシメ以テ本病ノ蔓延ヲ防止シ
漸次其ノ根絶ヲ企圖セラレルニ至レリ然レトモ本病ハ其經過
緩慢ニシテ長年月ニ渉ルヲ以テ之レカ豫防上ニ就テモ一ニ各
個人ノ周密ナル注意ニ依リ自衛ノ途ヲ講スルト共ニ患者竝家
人ニ於テハ須ラタ公德ヲ重ンシ以テ豫防消毒ノ方法ヲ嚴行ス
ルニアラサレハ如何ニ完備セル法規ノ存スルアリト雖モ病毒
ハ隱微ノ間ニ於テ散蔓シ所期ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヘ

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

シ要ハ官民一致ノ協力ヲ俟ツテ始メテ豫防ノ效果ヲ收メ得ヘ
キノミ各自宜シク此ノ趣旨ヲ體シ現ニ患者アル家ニ於テハ特
ニ左記各號ノ事項ヲ遵守シ學校、病院、製造所、旅店、船舶
等ニ於テ患者ヲ發見シ若ハ患者ヲ入ラシメタルトキ亦之ニ準
シ相當處置スル等本病ノ蔓延ヲ防止スルニ努ムヘシ

癩ニ關スル消毒其ノ他豫防方法

- 一 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 二 患者ノ衣類、寢具其ノ他日用具等ハ特ニ專用ノモノヲ備ヘ他ト混同セサル様注意スルコト
- 三 患者ノ常用衣類、敷布、寢具等ハ時々消毒ヲ行ヒタル後洗濯スルコト
- 四 患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保持スルコト
- 五 患者ノ居室ニハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備フルコト
- 六 病毒ニ汚染シタル繻帶、手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患者ノ紙屑襪類ハ焼却スルコト
- 七 患者ノ外出ハ可成避クシメ止ムヲ得ス外出セントスルト

- キハ清潔ナル衣服ヲ着用シ又潰瘍アルモノハ其ノ綳帶ヲ更ムルコト
- 八 患者ハ可成他トノ交通ヲ避ケシメ又理髮店、公衆浴場、料理店、飲食店、劇場、寄席、乗合船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラサルコト
- 九 患者ハ牛乳ノ搾取、飲食物、飲食器具、(金屬陶器類ヲ除ク)玩具ノ調製又ハ其ノ販賣其ノ他病毒傳播ノ虞アル業ニ従事セサルコト
- 十 患者ノ住居シタル家屋ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用、貸與又ハ授與セサルコト
- 十一 患者ノ使用シタル衣類、寢具、器具ハ勿論家人ノ常用衣類等病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用授與移轉又ハ遺棄セサルコト
- 十二 患者ノ一時滯留シタル場合ニ於ケルモ其ノ占居シタル室竝其ノ使用シタル衣類、寢具、器具等ニ對シテ亦前二條ヲ適用スルコト

●癩豫防ニ關スル件

(明治四十二年二月二十三日) 訓令甲第八號

警察 警察分署

癩豫防ニ關シ本日三重縣諭告第一號ヲ發布セリ就テハ便宜ノ方法ニ依リ其ノ趣旨ノ普及ニ努ムヘキハ勿論患者又ハ死者アリタル場合ニ於テハ該諭告ニ基キ相當指示シ豫防消毒ノ實行ヲ完カラシムル様取計フヘシ

●市町村種痘事務整理順序

(明治四十三年二月十八日) 訓令甲第四號

郡 役 所
警 察 署
同 分 署
市 役 所
町 村 役 場

本縣ニ於ケル最近數年間ノ定期種痘成績ヲ觀ルニ毎年ノ種痘數ハ人口千ニ對シ平均八十人餘ニ該リ能ク普及シ居ルカ如キモ其内容ニ至リテハ疾病事故ニ托シ種痘ヲ怠ル者平均約二萬人ヲ算シ種痘ヲ受ケル者ハ同一人ニシテ頻繁ニ之ヲ受ケ又之ヲ受ケサル者ハ遂ニ其ノ儘ニ經過シ斯クシテ漸次累積セル多數ノ種痘懈怠者ニ對シテハ痘瘡流行シ若ハ流行ノ兆アルニ際シ急遽臨時種痘ヲ施行シ辛フシテ其ノ種痘ヲ強制シ來リタルノ實況ナリシヲ以テ一朝病毒ノ侵襲ヲ蒙ルニ當リテハ土地ノ狀況ニ依リ往々流行ノ慘害ヲ免カレサリシナリ是レ畢竟舊種

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

痘規則ニ於テハ種痘ノ時期各人區々ニシテ從テ平時義務者ニ對シ之ヲ強制スルコト難ク又懈怠者ニ關スル規定ヲ缺ケル等不備ノ點アリシニ基因スルモノト認メ得ヘシ然ルニ明治四十二年法律第三十五號種痘法ハ克ク是等ノ缺點ヲ補ヒ平時定期種痘ヲ普及セシメ以テ臨時種痘ノ必要ヲ見サルニ至ラシムコトヲ期セラレタルカ故ニ運用其ノ宜シキヲ得ハ定期種痘ノ普及ヲ期シ法ノ目的ヲ達スルコト致テ難キニアラサルヘシ局ニ當ル者宜シク茲ニ鑑ミ左記市町村種痘事務整理順序ヲ參酌シ市町村ノ實情ニ照シ適當ナル順序方法ヲ定メ以テ毎年要種痘者ノ調査ヲ嚴密ニシ定期種痘ノ遺漏者ナカラシムコトヲ努ムヘシ

市町村種痘事務整理順序

第一 種痘期日ノ指定及公種痘施行ノ期間

第一條 市町村長(之ニ準スヘキモノ)ハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ前年中出生ノ者、數ハ歲十歳ノ者及前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者其ノ他種痘ヲ行フ必要アル者(第十條第三號乃至第五號及第十二號參照)ノ種痘期日ヲ指定スルコト

前項ノ種痘期日ハ公種痘(市町村ニ於テ施行)施行期間ノ最終日トスルコト但シ市町村内ノ字等ニ依リ種痘期日ヲ異ニスルモ妨ナシ

第二條 市町村長ハ受痘者ノ豫定員數ニ應シ(醫師一人一日百人以内)公種痘施行ノ期間及其ノ場所ヲ定メ種痘期日ノ指定ト共ニ豫メ之ヲ公告スルコト

市町村長ハ前項公告ノ外種痘簿、種痘票、學齡簿等ニ依リ種痘定期ニ在ル者其ノ他種痘ヲ行フ必要アル者ヲ調査シ其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ種痘期日ノ指定公種痘施行ノ期間及其ノ場所ヲ漏ナク通知スルコト

第三條 種痘法施行規則第四條ノ患者(痘瘡、猩紅熱、實布疹、丹毒、麻)アル家ノ受痘者ニ付テハ公種痘施行ノ日時又ハ場所ヲ別ニ定メ之ヲ其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ通知スルコト

第二 公種痘施行ノ準備

第四條 種痘ハ市町村醫ヲシテ之ヲ施行セシメ又ハ相當技能アル醫師ニ之ヲ囑托スルコト但シ便宜數町村協議シテ巡回種痘ヲ囑托スルモ妨ナシ

第五條 市町村ハ痘苗ノ外種痘ニ要スル器械藥品ヲ準備スルコト其ノ品目概テ左ノ如シ

- 一 一切種用種痘針
- 二 漿盤
- 三 滅菌「ガーゼ」及脱脂綿、同上容器
- 四 「アルコール」又ハ「クレゾール」水若ハ其ノ他ノ消毒藥液
- 五 「ペトリー」氏小皿及硝子製圓筒(「コップ」ノ類)前項品目ノ數量ハ種痘人員ニ應シ醫師ノ意見ニ依リ之ヲ定ムルコト

第六條 市町村ハ種痘ヲ行フヘキ人員(受痘者ハ第一期及第二期ヲ合シ人口千ニ付毎年五十人内)ニ應シ痘苗具數ヲ豫算シ發送期日ヲ指定シテ一箇月以前ニ傳染病研究所ニ請求スルコト

第七條 種痘施行ノ場所ハ受痘者ノ集合ニ便利ナル地區ニ於テ相當廣潤ニシテ可成清潔ナル個所ヲ撰定スルコト授業ヲ妨サル限リハ小學校等ヲ種痘所ニ充ツルヲ便宜トス

第八條 種痘所ニハ少クモ受痘者控室及施術室ヲ區別シ各室トモ豫メ濕拭掃除ヲ行ヒ又換氣採光ニ注意シ寒冷ナル日ニ在リテハ相當暖室ノ設備ヲ爲スコト

第三 種痘簿ノ編製

第九條 種痘簿ハ其ノ年施行スル公種痘ノ用ニ供シ併テ其ノ年ニ於ケル公私種痘ノ成績ヲ明ニスル目的ヲ以テ編製スルモノトス

第十條 市町村長ハ毎年二月末日迄ニ左記各號ニ依リ左記難形ニ準シ第一期及第二期種痘簿ヲ編製スルコト

- 一 戶籍簿、身分登記簿及寄留簿等ニ就キ前年中出生ノ現住人ヲ調査シ前年中既ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ之ヲ第一期種痘簿ニ登載スルコト但シ

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

寄留等ノ届出ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ登載スルコト

二 學齡簿等ニ就キ數ハ歳十歳ノ現住人ヲ調査シ前年迄ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ第二期種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ之ヲ第二期種痘簿ニ登載スルコト但シ學齡簿ニ登載ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ登載スルコト

三 戶籍吏又ハ他市町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ受ケタルトキハ他市町村ニ轉居シタル者ヲ除キ之ヲ第一期種痘簿ニ登載スルコト

四 前年種痘ヲ猶豫シタル者及前年第一回ノ種痘不善感ナル者其ノ他前年ノ種痘簿ニ登載ノ者ニシテ前年中ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ種痘ヲ完了セサルトキハ之ヲ第一期又ハ第二期種痘簿ニ登載スルコト

五 前各號ノ外學校、育兒院、製造所等ノ首長、警察官吏又ハ衛生組合長ノ通報、種痘法第四條第二項ノ届出其ノ他種痘法第十四條ニ依レル調査等ニ依リ種痘ヲ怠リ

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

四百七十四

タル者(種痘ヲ受ケタル證據不明)ヲ第一期又ハ第二期種痘簿ニ登載スルコト

第十一條 市町村長ハ種痘簿編製後種痘ノ指定期日マテニ前條ニ該當スル者其ノ市町村内ニ來住シタルトキハ遲滯ナク種痘簿ニ登載スルコト

第十二條 市町村長ハ前二條ノ外常ニ種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ之ヲ第一期又ハ第二期種痘簿ニ登載スルコト

第十三條 市町村長ハ種痘簿ニ登載ノ者種痘ノ指定期日マテニ死亡シ又ハ他市町村ニ轉住シ若ハ一年以上居所不明ナルトキ又ハ痘瘡ヲ經過シタル爲種痘ヲ要セザルトキハ其ノ事由ヲ當該欄内ニ記シ氏名ノ欄ヲ朱線ニテ抹消スルコト

第十四條 市町村長ハ公種痘ヲ施行シタルトキ及種痘法第十條第二項私種痘ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ都度遲滯ナク種痘ノ月日、成績等ヲ種痘簿當該欄内ニ記入シ種痘ヲ豫

第十五條 種痘簿ノ記入順序ハ受痘者ノ多數ナル市町村ニ於テハ町名、字名若ハ番地ニ依リ適當ニ區別シ又ハ氏名ノ「イロハ」順ニ記入スル等搜索ニ便ナラシムルコト

第四 種痘票ノ調製

第十六條 市町村長ハ便宜第九條乃至第十五條ノ種痘簿ヲ編製セス本條以下ニ依リ種痘票ヲ調製スルモ妨ナシ

第十七條 市町村長ハ毎年二月末日迄ニ左記各號ニ依リ左記雛形ニ準シ第一期及第二期種痘票ヲ調製スルコト

- 一 戶籍簿、身分登記簿及寄留簿等ニ就キ前年中出生ノ現住人ヲ調査シ既ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ第一期種痘票ヲ調製スルコト但シ寄留等ノ届出ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ種痘票ヲ調製スルコト
- 二 學齡簿等ニ就キ數ヘ歳十歳ノ現住人ヲ調査シ前年迄ニ痘瘡ヲ經過シ又ハ第二期種痘ヲ完了シタル者ヲ除キ第二期種痘票ヲ調製スルコト但シ學齡簿ニ登載ナキ現住人ハ警察官吏ノ通報等ニ依リ之ヲ調査シ種痘票ヲ調製スルコト

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

四百七十五

第十八條 市町村長ハ種痘票調製後種痘ノ指定期日マテニ前條ニ該當スル者其ノ市町村内ニ來住シタルトキハ遲滯ナク種痘票ヲ調製スルコト

第十九條 種痘票調製後種痘ノ指定期日マテニ死亡シ又ハ痘瘡ヲ經過シタル者及前年第一回ノ種痘不善感ナル者其ノ他未タ種痘ヲ完了セザル者ノ種痘票ヲ取出シ本條各號ノ種痘票ト共ニ整理スルコト

第二十條 前各號ノ外種痘ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ其ノ種痘票ヲ調製スルコト

第二十一條 市町村長ハ他市町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ受ケタルトキハ他市町村ニ轉居シタル者ヲ除キ第一期種痘票ヲ調製スルコト

第二十二條 種痘法第四條第二項ノ届書、警察官吏衛生組合長ノ通報書其ノ他種痘ヲ怠リタル者ノ覺書等及種痘猶豫期限ノ經過シタル猶豫願書並私種痘ノ第一回不善感届書ヲ取出シ種痘票ヲ調製スルコト

第二十三條 前年ノ種痘票中種痘ヲ猶豫シタル者及前年第一回ノ種痘不善感ナル者其ノ他未タ種痘ヲ完了セザル者ノ種痘票ヲ取出シ本條各號ノ種痘票ト共ニ整理スルコト

瘡ヲ經過シ若ハ私種痘ノ届出ヲ爲シタル者ニ付テハ第二十四條ノ場合ヲ除ク外其ノ種痘票ヲ廢棄スルコト又他市町村ニ轉居シタル者ニ付テハ其ノ種痘票ヲ廢棄シ若ハ便宜之ヲ轉居地ノ市町村長ニ送致シ轉居通報ノ用ニ供スルコト
種痘票調製後種痘ノ指定期日マテニ種痘ヲ猶豫シタル者ニ付テハ其ノ種痘票備考欄内ニ其ノ事由ヲ記入シ他日ノ用ニ供スルコト

第二十條 市町村長ハ常ニ種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ若シ直ニ種痘ヲ完了セシメ難キトキハ其ノ覺書ヲ調製シ他日ノ用ニ供スルコト

第二十一條 第三十五條ニ依リ種痘ヲ施行スルトキ種痘票未調製ノ者ニ付テハ其ノ際之ヲ調製シ記入スルコト

第二十二條 種痘票ハ使用後善感、不善感、猶豫、不參等ニ依リ區分シ十年間之ヲ保存スルコト

第二十三條 種痘法第十二條第二項私種痘ノ届書（口頭届出書ヲ）猶豫申請書、種痘法第四條第二項ノ届書、警察官吏

衛生組合長ノ通報書、未種痘者覺書等ハ一括保存スルコト

前項書類ノ保存期間ハ私種痘届書ハ十年間其ノ他ハ種痘完了又ハ種痘票調製済マテトス

第二十四條 市町村長ハ事務ノ繁簡ニ依リ前條ノ届書、申請書、通報書、覺書等ニ代ヘ其ノ種痘票ヲ調製シテ保存スルコト此ノ場合ニ於テハ私種痘ノ種痘票ニハ其ノ備考欄内ニ私種痘ト朱書スレコト

第五 種痘及檢診ノ施行

第二十五條 市町村吏員ハ種痘所ニ臨ミ種痘事務ニ從事スルコト

種痘所ニハ種痘簿又ハ種痘票ヲ配置シ種痘ノ月日成績等ヲ記入スルコト

第二十六條 相當ノ事由ニ依リ種痘所ニ出頭スルコト能ハサル受痘者ニ對シテハ其ノ住所ニ就キ種痘ヲ施行スル等適宜ノ方法ヲ講スルコト

第二十七條 種痘所ニハ檢診期日及種痘後注意スヘキ事項ヲ

揭示シ且之ヲ口頭及覺書ヲ以テ保護者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ指示スルコト其ノ注意スヘキ事項概テ左ノ如シ

一 清潔ナル體類ヲ着用セシムルコト

二 感冒ノ豫防ニ注意シ接種後數日間ハ腰湯ノ類ハ妨ナキモ可成全身浴ヲ禁スルコト

三 接種ノ部位ハ酸擦、搔爬、又ハ汚染セサル様注意スルコト

四 接種部附近ニ膿腫ヲ生シタルトキ、發熱高キトキ又ハ潰瘍ヲ生スルノ傾アルトキハ醫師ノ診察ヲ受クルコト

五 指定セラレタル檢診期日ニハ相違ナク檢診所ニ出頭スヘキコト但シ不得止事由アルトキハ其ノ當日マテニ事由ヲ具シ届出ルコト

六 種痘證書ハ大切ニ保存スヘキコト

第二十八條 檢診ハ種痘後第六日乃至第八日ニ種痘所ニ於テ醫師之ヲ行ヒ市町村吏員ハ其ノ事務ニ從事スルコト

第二十九條 檢診ノ當日相當ノ事由ニ依リ出頭スルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ住所ニ就キ檢診ヲ行ヒ又ハ最寄醫師

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

ノ檢診ヲ受ケシメ其ノ種痘證書ヲ提示シ又ハ其ノ寫ヲ添ヘ口頭若ハ書面ニテ届出ヲ爲サシムルコト

第三十條 種痘證書ハ檢診ノ當日之ヲ交付スルコト

第三十一條 市町村長ハ學校、育兒院、製造所其ノ他多數ノ兒童ヲ集合セシムル場所ノ首長ニ協議シ各自ニ醫師ヲシテ種痘及檢診ヲ行ハシメ又ハ兒童ノ來集スヘキ種痘所及日時等ヲ打合ハセ種痘及檢診ヲ行フコト

第三十二條 市町村長ハ衛生組合長ヲシテ組合内ノ種痘未了者ヲ調査セシメ其ノ保護者等ニ對シ指定期日マテニ種痘ヲ受クヘキコトヲ戒告セシメ其ノ種痘所ニ來集スヘキ者ハ可成之ヲ引率出頭セシムルコト但シ兒童ノ保護者等ニシテ兒童ヲ種痘所ニ出頭セシメ難キ事情アル者アルトキハ其ノ氏名住所等ヲ通報セシメ第二十六條ニ依リ種痘ヲ施行スルコト

第三十三條 衛生組合ニ於テ種痘ヲ施行シタルトキハ便宜組合長ヲシテ保護者等ニ代リ施術醫師ノ證明ヲ得種痘法第十二條第二項私種痘ノ届出ヲ爲サシムルコト

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及検査

四百七十八

第三十四條 市町村長ハ種痘簿、種痘票等ニ依リ指定期日マテニ種痘ヲ行ハサル者、種痘猶豫期間ヲ經過シタル者其ノ他種痘ヲ怠リタル者ヲ調査シ其ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ適當ト認ムル期日ヲ限リ種痘ヲ催告スルコト

前項期日マテニ種痘ヲ完了セサルトキハ種痘法施行規則第六條ニ依リ遅クモ次回ノ公種痘施行期ニ於テ更ニ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ對シ種痘期日ヲ指定スルコト前項期日マテニ尙故ナク種痘ヲ行ハサルモノアルトキハ市町村長ハ警察官吏ト協議シ其ノ居所等ニ於テ種痘ヲ強制施行スルコト

第三十五條 受痘者多數ナル市町村又ハ海外諸港ト交通アル海港地ニ於テハ第二條ニ依ルノ外十月ヨリ十二月ニ至ル間ニ於テ再ヒ公種痘施行ノ日及其ノ場所ヲ定メ前條第一項ニ該當スル者及種痘定期ニ在リテ種痘ヲ受ケントスル者ニ種痘ヲ施行スルコト

第六 種痘ニ關スル通知記入

第三十六條 市町村長ハ戶籍吏又ハ他市町村長ヨリ第一期種痘未了者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ他市町村ニ轉居シタル者アルトキハ速ニ之ヲ轉居先ノ市町村長ニ轉報スルコト

第三十七條 市町村長ハ公種痘ヲ施行シ又ハ種痘法第十二條第二項私種痘ノ届出ヲ受ケタルトキハ第一期種痘ヲ完了シタル者(善感シタル者及不善感ナル)ヲ速ニ本籍地ノ戶籍吏ニ通知スルコト第一期種痘前痘瘡ヲ經過シタル者アルトキ亦同シ

第三十八條 市町村長ハ學齡簿編製ノ際之ニ種痘ニ關スル事項(第何期種痘完了、第何期第一回)ヲ記入スルコト(不善感、痘瘡經過各其ノ年月)ヲ記入スルコト

前條ノ場合ニ於テ學齡兒童ナルトキハ其ノ第一期種痘ナルト第二期種痘ナルトニ拘ラス之ヲ學齡簿ニ記入スルコト第二期種痘前痘瘡ヲ經過シタル者アルトキ亦同シ

第三十九條 市町村長ハ小學校及之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書、修業證書又ハ保育證書ニ可成種痘ニ關ス

ル事項(定期種痘完了又ハ痘瘡經過)ヲ記入セシムルコト
第七 種痘濟證及種痘證等ノ調製
第四十條 種痘濟證ハ保存ニ便ナラシムル爲可成厚キ西洋紙ニテ調製シ其ノ大サハ縱五寸五分横四寸五分位ト爲スコト

(雜形) 用紙ハ美濃紙トス

明治 年 第 期 種痘簿				何々 市區役所 町村役場				
氏 名	生 年 月	住所及保護者等氏名	種痘月日	發痘數	善感 不善感	公種痘 私種痘	種痘ヲ行ハサル理由	備 考

第四十一條 市町村ニ於テハ可成醫師ノ交付スヘキ種痘證用紙ヲ種痘濟證用紙ニ準シテ調製シ醫師ノ請求アルトキハ無償ニテ之ヲ交付スルコト私種痘届用紙モ亦之ニ準シ醫師ニ交付シ置キ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ニ代リ届出ヲ爲サシムルコト

十一 組合規約違背者過慮處分ノ方法ヲ定ムルコト
十二 其他必要事項

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ニ報告スヘシ

第七條 衛生組合ニハ少ナクモ左ノ消毒器具及ヒ藥品ヲ備置
クヲ要ス

- 一 蒸氣消毒器或ハ大釜
- 二 手桶或ハ石油罐
- 三 柄杓及如露
- 四 石炭酸
- 五 生石灰

第八條 組長副組長ノ人名ハ市町村長ヨリ知事ニ届出テ同時
ニ所轄警察署又ハ警察分署ニモ報告スヘシ

附則

第九條 組合規約ハ本年九月三十日迄ニ認可ヲ受クヘシ

● 檢疫委員職務章程

(明治三十二年七月七日)
(訓令甲第六十八號)

郡 役 所
警 察 署
同 分 署

明治三十年(九月)本縣訓令甲第八十一號檢疫委員職務章程左
之通改正ス

檢疫委員職務章程

第一條 檢疫委員長ハ知事ノ命ヲ承ケ傳染病豫防救治及船舶
汽車檢疫事務ニ付檢疫委員事務所長以下檢疫委員ヲ指揮監
督ス

第二條 檢疫委員副長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アルトキ
ハ其事務ヲ代理ス

第三條 縣廳内ニ檢疫委員ヲ置クトキハ其事務所ヲ檢疫委員
部トス

第四條 檢疫委員長ハ檢疫委員部ニ雇員若干名ヲ置キ書記計

算ヲ從事セシムルコトヲ得

第五條 檢疫委員長ハ檢疫委員ニ事務分掌ヲ命スルコトヲ
得

第六條 檢疫委員長ハ管内檢疫豫防ノ狀況監察ヲ要スル區域
ヲ定メ檢疫委員ニ巡視ヲ命ス

第七條 巡視ヲ命セラレタル者ハ郡市檢疫委員事務所市町村
豫防委員事務所ニ於ケル事務ノ整否及檢疫豫防ノ實況ヲ視
察シ其狀況ヲ時々檢疫委員長ニ報告ス

第八條 郡市ニ設置スル檢疫委員事務所ハ適宜郡役所又ハ警
察署内ノ一部ヲ以テ之ニ充ツ

事務所長ハ必要ト認ムルトキハ檢疫委員長ノ認可ヲ得テ流
行區域内便宜ノ地ニ事務所ヲ移スコトヲ得

第九條 事務所長ハ檢疫委員事務所ニ屬スル事務整理ノ責ニ
任シ部下ヲ指揮監督ス

第十條 副長ハ所長ヲ補佐シ所長事故アルトキハ其事務ヲ代
理ス

第十一條 事務所長ハ郡長警察署長ニ協議シ檢疫委員ニアラ

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

● 船舶汽車檢疫施行手續

(明治三十三年六月十九日)
(訓令甲第五十七號)

附則 明治三十三年八月訓令甲第七三號改正

郡 役 所
檢 疫 委 員 事 務 所
警 察 署
同 分 署

船舶汽車檢疫施行手續左ノ通り相定ム

船舶汽車檢疫施行手續

第一條 船舶入港シタルトキハ檢疫委員其ノ船舶ニ就キ左記

各號ノ尋問及検査ヲ爲スヘシ

- 一 船名及船員ノ數
- 二 出港地名及其ノ月日
- 三 檢疫スヘキ目的地寄港セシヤ否
- 四 行先港名
- 五 船中病者若ハ死者ノ有無
- 六 檢疫スヘキ目的地ヨリ乗込タル船客ノ數
- 七 他港ヨリ乗込タル船客ノ數
- 八 病者ニ汚染シ又ハ其ノ媒介トナルヘキ物件搭載ノ有無
- 九 檢疫スヘキ目的地ヨリ積込タル物件ニシテ陸揚スル種類及個數
- 十 虎列刺又ハ「ペスト」患者アリタル船舶ト交通セシヤ否
- 十一 飲料水ヲ汲入レ若ハ食料ヲ積入タル地名
- 第十二條 船客ニ對シテハ客室ニ就キ船員ニ對シテハ其ノ全員ヲ甲板ニ整列セシメテ望診ナシ疑ハシキ者アルトキハ觸診検査ヲ行フヘシ

- 名ヲ取調ヘ若シ檢疫スヘキ目的地ヲ發シ又ハ經過シタル者アルトキハ時宜ニヨリ健康診断ヲ行フコトヲ得
- 第三條 船中ニ虎列刺又ハ「ペスト」患者若ハ死者アリタルトキハ當該檢疫委員ヨリ檢疫委員長ニ急報シ且船舶檢疫規則第七條ニ依リ之レカ取扱ヲ爲スヘシ
- 第四條 虎列刺又ハ「ペスト」患者若ハ死者アリタル船舶ハ檢疫ヲ了リタル後規定ノ日時間港内適當ノ場所ニ停留セシムヘシ
- 停留ヲ命シタル船舶ニハ所名ノ墨書シタル巾一尺長一尺五寸ノ黃旗ヲ與ヘ之ヲ前櫓又ハ船頭ニ掲グシメ其ノ出港許可、際ハ之ヲ還付セシムヘシ
- 第五條 船舶檢疫規則第四條第五條及第六條ノ消毒ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ施行スヘシ
 - 一 船客及船員ノ消毒ノ上入浴セシメ在船中著用セシ衣類及携帶品ハ蒸氣煮沸又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒ヲ行ヒ一時休憩所ニ留置シ本條第二號以下ノ處置ヲ爲スヘシ但シ患者若クハ死者ニ觸接シタルモノハ之ヲ其ノ他ノ者

ト區別シテ最後ニ消毒スヘシ

- 二 患者若ハ死者ノ用キタル衣類、臥具、手中其ノ他病毒ニ汚染シタル物品ハ之ヲ焼却スヘシ
- 三 病毒汚染ノ虞アル物品ハ他ノ物品ト區別シ置キ蒸氣煮沸又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ
- 四 患者ノ起臥シタル船室ハ石炭酸水ヲ用キ其ノ使用シタル厠房ハ石炭乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ
- 五 前號ノ外船内不潔ノ場所及病毒汚染ノ虞アル部分ハ石炭乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ
- 六 前各號ノ手續ヲ終リタルトキハ成ルヘク船體ノ全部ヲ海水又ハ熱湯ヲ以テ洗滌若ハ拭淨セシメ其ノ乾燥ヲ俟テ船客及船員ヲ歸船セシムヘシ但シ漁舟艇舟等船中ニ停留シ難キモノハ便宜隔離所ヲ定メ之ニ移シ一定ノ日時間停留セシムヘシ
- 七 飲料水ハ消毒ノ上投棄シ更ニ淨水ヲ汲入レシムヘシ但シ事情止ムヲ得サルトキハ在來ノ飲料水ヲ煮沸シタル上之ヲ使用セシムルコトヲ得

八 船底水ニハ其容量ニ百分ノ一ノ生石灰末ヲ投シ船體ヲ動搖セシメ二十四時間ヲ經過シタル後汲出サシムヘシ

- 第六條 船舶内ノ塵埃ハ船中ニ於テ便宜焼却シ若ハ消毒ノ上港外ノ海中ニ投棄セシムヘシ
- 第七條 汽車著陸シタルトキハ檢疫委員其ノ車室ニ就キ左記各號ノ検査ヲ爲スヘシ
 - 一 病毒ニ汚染シ又ハ其ノ媒介トナルヘキ物件搭載ノ有無
 - 二 檢疫スヘキ目的地ヨリ積込ミタル物件ニシテ荷卸スル種類及個數
- 第八條 汽車乗客ニ對シテハ本則第二條ヲ準用ス
- 第九條 汽車内ニ於テ虎列刺又ハ「ペスト」患者若ハ死者アリタルトキハ當該檢疫委員ヨリ消毒ヲ施行スヘキ地ノ檢疫委員事務所長ニ急報スヘシ
- 第十條 汽車中虎列刺又ハ「ペスト」患者若ハ死者アリタルトキハ汽車檢疫規則第二條及第六條ニ依リ之カ取扱ヲ爲シ且本則第五條ニ準シ消毒方法ヲ施行スヘシ但シ消毒藥ハ石炭酸水ニ限ル

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

四百八十六

第十一條 車内ノ塵埃ハ停車場構内一定ノ場所ニ於テ燒却セシムヘシ

第十二條 船舶又ハ汽車ニ患者若ハ死者ナキ場合ト雖モ第一條第八號第九號及第七條第一號第二號ノ物件アリタルトキハ相當ノ消毒方法ヲ施行スヘシ

第十三條 船舶又ハ汽車乗客ニシテ檢疫スヘキ目的地ヲ發シ若ハ經過シタル者ノ上陸又ハ下車スル者及船舶又ハ汽車ノ消毒ノ後上陸又ハ下車ヲ許シタル者ニ對シテハ其行先地ヲ取調ヘ住所氏名及其ノ事由ヲ行先地ノ郡市役所及警察署分署ニ通報スヘシ

第十四條 船舶又ハ汽車ノ消毒ヲ施行シタルトキハ其ノ狀況ヲ檢疫委員事務所長ヨリ速ニ檢疫委員長ニ報告スヘシ

第十五條 船舶又ハ汽車ノ檢疫ニ關スル狀況ハ別表ニ依リ五日毎ニ檢疫委員長ニ報告スヘシ

第十六條 船舶又ハ汽車ニ於テ輸入禁止物件ヲ發見シタルトキハ其種類及個數ヲ取調ヘ最寄ノ檢疫委員事務所長ニ通報スヘシ

檢疫委員事務所長前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ其ノ物件ヲ監督シ貴重品ト認ムルモノハ檢疫委員長ノ指揮ヲ受ケタル後其ノ他ノ物件ハ直ニ之ヲ處分シ其ノ種類個數及價格等ヲ報告スヘシ

第十七條 檢疫委員其ノ他消毒ニ從事シタル者ノ著衣及其ノ用ニ供シタル諸器具等ニハ一定ノ消毒ヲ行フヘシ

第十八條 檢疫委員無償ニテ乗船又ハ乘車スルトキハ左ノ證票ヲ携帯スヘシ

縦二寸五分

第 號
汽車 船舶 檢疫委員ノ證

官氏名

裏 三 重 縣 印

第十九條 檢疫委員ハ勤務中必ス洋服ヲ著ケ徽章トシテ幅一寸ノ萌黃羅紗ヲ左腕ニ纏フヘシ

第二十條 檢疫委員(警察官ヲ除ク)ハ一面ニ「檢疫委員」他ノ一面ニ「三重縣」ト記シタル騎馬提灯ヲ用ウヘシ

第二十一條 檢疫委員事務所ニハ所名ヲ記シタル縦五尺横一尺一寸ノ表札ヲ掲ク夜間ハ所名ヲ記シタル標燈ヲ掲クヘシ

某港船舶檢疫報告

自何月何日
至何月何日

第二十二條 檢疫委員事務所ニテ使用スル解船ニハ幅二尺長二尺五寸ノ白布ニシテ所名ヲ記シタル標記ヲ掲ク夜間ニハ所名ヲ記シタル標燈ヲ掲クヘシ

第二十三條 檢疫委員事務所使丁用提灯ハ所名ヲ記シタル棗形弓張提灯ヲ用ウヘシ

計	何隻	何人	何人	何人	何人	何人	何人																									
月	檢	日	疫	船	種	船	名	出	港	地	同上	出	港	月	日	乘	客	船	員	上	陸	人	員	消	毒	人	員	檢	疫	委	員	名

右ノ外本期間碇泊船ノ巡視ヲナス何隻
右及報告候也

第十一編 警察 第七章 衛生 第八款 傳染病豫防及檢疫

四百八十七

第九款 トラホーム豫防

●「トラホーム」豫防法令施行細則

(大正八年十月七日
縣令第六十九號)

「トラホーム」豫防法令施行細則左ノ通之ヲ定ム

「トラホーム」豫防法令施行細則

第一條 神社佛閣其ノ他公衆ノ參拜スル場所ニ於ケル鹽歌場
及感化院育兒院等ニ於テハ「トラホーム」豫防法令施行規則第
二條ノ規定ヲ遵守スヘシ

第二條 旅人宿、下宿屋、料理屋、理髮店其ノ他客ノ來集テ
目的トスル場所ニ於ケル從業者ニシテ直接客ニ接スル者及
看護婦、按摩術、鍼術、灸術業者並藝妓、娼妓其ノ他直接
客ニ接スル業務ニ従事スル者ニシテ「トラホーム」患者タル
トキハ其ノ從業ヲ停止スルコトアルヘシ

第三條 市町村ハ其ノ市町村内ノ住民ニ對シ毎年一回以上
「トラホーム」ノ有無ヲ檢診スヘシ

第十一編 警察 第七章 衛生 第九款 「トラホーム」豫防

第四條 「トラホーム」ノ診斷ハ左記標準ニ據ルヘシ

重症

重症「トラホーム」トハ概ネ左ノ如キモノヲ謂フ

一、結膜ニ汎ク顆粒簇生スルモノ顆粒ノ發生ト共ニ乳嘴

ノ増殖著シキモノ又ハ炎症高度ニシテ

モノ

二、「トラホーム」性「パンヌス」ヲ起シ其ノ進行中ニアル

モノ

輕症

輕症「トラホーム」トハ概ネ左ノ如キモノヲ謂フ

一、顆粒ノ發生、乳嘴ノ増殖等「トラホーム」性病變カ驗

結膜ノ内外眥部、半月狀皺襞又ハ穹窿部ニ限局スル

モノ

二、結膜ニ於ケル病變輕度ニシテ分泌少ナキモノ

疑似症

「トラホーム」疑似症ハ概ネ左ノ如キモノヲ謂フ

一、「トラホーム」ニ類似スル症狀アルモ直ニ「トラホ

一ムト診定シ難キモノ
二、結膜ニ「トラホーム」經過ノ疑アル癩瘻アリテ炎症ヲ伴フモノ

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ニ居住スル「トラホーム」患者ニシテ治療ヲ受クル途ナキ者ニ對シ其ノ治療ヲ施行スヘシ

第六條 郡市町村ニ於テ「トラホーム」豫防ノ爲メ支出シタル費用ニ對シテハ左記區別ニ依リ縣費ヲ以テ補助金ヲ交付ス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ其ノ支出金額ノ全部マテ補助スルコトアルヘシ

一、診察料、醫師及助手ノ給料、旅費、手當、藥品費其ノ他ノ治療費並常設郡醫ノ俸給、旅費、手當ニ關スル費用ハ支出額ノ二分ノ一以內

二、備品費、消耗品費、醫師並助手以外ノ雇傭給其ノ他豫防ニ關スル費用ハ支出額ノ五分ノ一以內

前項ノ支出額貳拾圓未満ナルトキハ補助金ヲ交付セス

第七條 前條第一項ノ費用ニシテ補助申請書ニ記載セル支出

金額適當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シテ補助金ヲ交付ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年二月三號 重縣令第十一號「トラホーム」豫防費補助規程ハ之ヲ廢止ス

●「トラホーム」豫防法令施行手續

(大正八年十月十七日)
(訓令甲第四十二號)

附則 大正一一年一月訓令甲第三六號改正

郡 役 所
市 役 所
警 察 署
同 分 署
町 村 役 場

「トラホーム」豫防法令施行手續左ノ通之ヲ定ム
「トラホーム」豫防法令施行手續

第一條 郡市町村及警察官署ニ於ケル當該官吏並吏員ハ「トラホーム」患者又ハ其ノ保護者ニ對シ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ

前項ノ方法ハ「トラホーム」豫防法施行規則第一條ノ規定ニ依リ醫師ノ指示スヘキ事項ニ準據シ仍必要ト認ムルトキハ該事項以外ニ涉リテ指示スルヲ妨ケス

第二條 警察官署長必要アリト認ムルトキハ「トラホーム」豫防法令施行規則第二條ノ規定ニ依リ從業停止ノ處分ヲ行フヘシ

前項ノ處分ヲ行ヒタルトキハ速ニ知事ニ具申スヘシ其ノ停止解除ノ處分ヲ行ヒタルトキ亦同シ

第三條 市町村長ハ「トラホーム」檢診ノ日時場所ヲ定メ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告シ郡市長ハ之ヲ所屬警察官署長ニ通報スヘシ

第四條 所轄警察官署長ハ市町村長ノ施行スル「トラホーム」檢診ノ際之ニ協力援助シ且所屬巡查ヲ立會セシムヘシ

第五條 「トラホーム」ト診定セラレタル者ニハ別記第一號書

第十一編 警察 第七章 衛生 第九款 「トラホーム」豫防

式ノ治療注意書ヲ交付シ當該市町村吏員及警察官吏ニ於テ隨時該治療注意書ヲ檢閲シ其ノ治療ヲ督勵スヘシ

第六條 市町村ニ於ケル「トラホーム」檢診成績ハ別記第二號書式ニ據リ毎年一月末日ヨリ郡市長ヨリ知事ニ報告スヘシ

前項ノ成績ハ一箇年中二回以上檢診ヲ施行シタル市町村アルトキハ其ノ最終ノ成績ヲ報告スヘシ

第七條 市町村ニ於ケル「トラホーム」治療成績ハ別記第三號書式ニ據リ毎年十二月末日現在ヲ調査シ翌年二月十日マテニ郡市長ヨリ知事ニ報告スヘシ

第八條 郡市町村ニ於テ支出シタル「トラホーム」豫防費補助申請書ハ別記第四號書式ニ據リ同第五號書式ノ支出明細書並同第六號書式「トラホーム」豫防法施行規則第三條第二項ノ規定ニ依リ控除金額ノ内譯書ヲ添付スヘシ

第九條 町村ヨリ提出スル補助申請書ハ所轄郡役所ヲ經由スヘシ

郡役所ニ於テ前項ノ申請書ヲ受附タルトキハ速ニ調査ヲ遂ケ進達スヘシ

第十一編 警察 第七章 衛生 第九款 トラホーム豫防
第四號書式

四百九十八

何年度「トラホーム」豫防費補助申請書

一金何程

内譯

何郡、市、町、村

費目	支出金額	控除金額	残額	補助申請額
治療ニ關スル諸費				二分ノ一
豫防ニ關スル諸費				五分ノ一
計				

右ノ通相違無之候ニ付補助金下付相成度此段申請候也

年月日

知事宛

郡市町村長 氏

名印

第五號書式

何年度「トラホーム」豫防費支出明細書

治療ニ關スル諸費ノ部

支拂命令番號	種別	員數	單價	金額	債主ノ住所	摘要
支出年月日					氏名	
小計						

豫防ニ關スル諸費ノ部

支拂命令番號	種別	員數	單價	金額	債主ノ住所	摘要
支出年月日					氏名	
小計						
合計						

右支出證據書ト對照シ其ノ相違ナキコトヲ證明ス

年月日

何郡市町村長

氏

名印

一、本書ハ各債主ノ領收書毎ニ其ノ要項ヲ摘録シ若シ一領收書ニ數種ノ品目等列記シアレハ其ノ種類毎ニ記入スルモノトス

第十一編 警察 第七章 衛生 第九款 トラホーム豫防

四百九十九

二、摘要欄ニハ用途及購入修繕借入、検診治療、雇傭、豫防事務ニ従事セシ者等ノ年月日又ハ手當支給ノ期
間ヲ記入スルモノトス

第六號書式

控除金内譯書

(控除金アリタル場合ニ添付ノコト)

一金 何程

内譯

金 何程

金 何程

右ノ通相違無之候

年月日

何々寄附金受入
何々受入

何郡市町村長 氏

名 印

●「トラホーム」豫防注意方ノ件

(明治三十八年五月二日)
諭告第二號

「トラホーム」ニ對スル豫防注意方ニ關シテハ曾テ明治三十二年(七月)諭告第四號ヲ發布シテ警告セシ所アリ公私之カ實行ニカメツツアルナラムモ本病患者ハ爾後絶テ終熄セサルノミナラス却テ益々流行蔓延ノ徵候アルハ公衆衛生上一大遺憾ト

スル所ナリ此ノ状態ニシテ推移セムカ終ニ幾多少壯者ヲシテ或ハ就學ノ方向ヲ誤ラシメ或ハ稼業ノ途ヲ失ハシムル等其ノ害延ヒテ國家生産力ノ萎靡ヲ致シ陸海軍壯丁ノ補充ニ鈔カラサル支障ヲ來スニ至ルヘシ誠ニ憂慮ニ堪ヘサルナリ抑々本病ハ眼瞼内面ニ顆粒ヲ生スル觸接性傳染病ニシテ其ノ病毒タル常ニ分泌物中ニ含蓄セラレ而シテ一度本病ニ罹リ其ノ治療ヲ怠ルトキハ非常ニ長キ經過ヲ取ルモノニシテ往時不治ノ病ト

稱セラレタルモ故ナキニアラス然レトモ醫學ノ進歩ニ伴ヒ本病モ初期ニシテ未タ新ラシキ變化ヲ來ササル場合ニ於テ適當ノ處置ヲ施ストキハ致テ治療セサルモノニアラサルコトヲ知ルニ至レリ要ハ主トシテ個人的注意ノ厚薄如何ニ因ルノミ各自宜シク以上ノ趣旨ヲ體シ左記要領ニ依リ自今一層豫防撲滅ノ實行ヲ期シ苟モ忽諸ニ付スルコトナキ様十分警戒スヘシ
「トラホーム」豫防要領

健康者ノ注意

- 一 健康者ハ成ルヘク眼病者ノ身體著衣及所持品ニ觸ルヘカラス
- 二 眼病者アル家ニ出入スルトキハ其ノ家ノ物品建具等ニ手指ヲ觸レテ様注意シ若シ之ニ觸レタルトキハ必ス洗淨スヘシ
- 三 工場其ノ他多人數集合スル場所ニテ作業スル者ハ平素眼邊ニ手指ヲ觸レサル様注意シ場外ニ出テタルトキハ手指ヲ洗淨スヘシ
- 四 工場等ニテハ清潔及空氣ノ流通ニ注意シ室内ニ十分光

第十一編 警察 第七章 衛生 第九款 「トラホーム」豫防

患者ノ注意

- 一 患者ノ家族ハ手指洗淨後ニアラサレハ眼邊ニ手指ヲ觸レサル様注意スヘシ
- 二 患者ノ家族ニシテ眼ニ異常ヲ覺フルトキハ手療治ニ依

線ヲ探リテ室外ノ光線ニ眼ヲ習慣セシメ時々椅子卓子等ヲ拭淨シタル後乾燥セシメ又手洗水ノ汚染ヲ避クル爲成ルヘク使用ノ都度容器ヨリ水ノ流れ出ツル裝置ヲ設ケ手巾ノ共用ヲ禁スヘシ

- 五 工場等ニ於テ「トラホーム」患者アルヲ發見セシ場合ハ醫治ヲ受クヘキコトヲ諭示シ速ニ患者ト健康者トノ隔離ヲ行ヒ互ニ接近セシメサル様注意スヘシ
- 六 小兒ノ集合遊戯ハ病毒傳染ノ虞多キヲ以テ流行地ニ在リテハ成ルヘク集合セシメサル様注意スヘシ
- 七 砂塵ノ飛揚スル天候ニハ成ルヘク保護眼鏡(色眼鏡)ヲ用ウヘシ
- 八 眼ニ異常ヲ感シタルトキハ手療治ニ依ラス醫ノ診療ヲ受クヘシ

- ヲス直ニ醫師ノ診斷ヲ受ケヘシ
 - 三 手巾履具盥盤其ノ他ノ器具及玩具ハ患者用ノモノト健康者用トノモノヲ區別シ置クヘシ若止ムヲ得スシテ共用スルトキハ患者ノ使用後二十倍乃至五十倍ノ石炭酸水ヲ以テ消毒シ又ハ熱湯ヲ灌キ若ハ日光ニ曝ス等物品ノ種類ニ應シ適當ノ消毒ヲ爲スヘシ
 - 四 患者ノ家族ハ身體ヲ清潔ニ保チ著衣ハ不潔ニ汚ラサル様屢々洗濯スヘシ
 - 五 家屋内ノ清潔方法ヲ勵行シ且ツ空氣ノ流通及光線ノ射入ヲ充分ナラシムヘシ
- 患者ノ注意
- 一 患者ハ手指ヲ洗淨シタル後ニアラサレハ他ノ物品ニ手ヲ觸ルヘカラス
 - 二 患者ハ成ルヘク人ノ群集セル場所ニ交通スルコトヲ遠慮スヘシ
 - 三 患者入浴スルトキハ豫メ浴槽外ノ湯又ハ水ニテ顔部殊ニ眼邊ヲ充分洗淨スヘシ

- 四 患者ハ夜間成ルヘク早ク眠ニ就キ一眠ヲ疾ム者ハ綳帶ヲ爲スカ又ハ患眼ヲ下ニシテ臥シ朝ハ早ク離床スヘシ又光線不充分若ハ塵埃多キ場所ニテ業ヲ執ラサル様注意スルヲ要ス
- 五 患者治療ヲ怠ルトキハ經過ヲシテ緩慢ナラシメ經過中續發症(眼瞼縁炎、睫毛ノツググ、角膜ノ潤濁)ヲ惹起シ或ハ他ノ眼疾ヲ誘起シテ遂ニ失明同様ニ陥ルコトアルヲ以テ力メテ初期ニ於テ十分ノ醫療ヲ受クルコトヲ忘ルヘカラス

第十款 汚物掃除及清潔

● 汚物掃除法施行細則

(明治三十三年六月一日) 縣令第三十五號

汚物掃除法施行細則左ノ通定ム

汚物掃除法施行細則

- 第一條 建物ノ所有者又ハ建物ナキ土地ノ所有者ニシテ溝渠ヲ築造セムトスルモノハ左ノ方法ニ準據シ構造仕様書及圖面ヲ具シ市長ノ認可ヲ受クヘシ
- 一 溝渠ノ材料ハ石、煉瓦、敲、鐵管又ハ釉藥ヲ施シタル陶器其他ノ不透透質トシ其ノ接合部ニハ「セメント」、「モールタル」又ハ「コンクリート」ヲ用ヒ鐵管ニハ金屬ノ接合劑ヲ用フルコト但シ築造ノ場所ニ依リ其ノ内外面ニ「コールタル」ヲ塗布シタル厚サ八分以上ノ木材ヲ用フルコトヲ得
 - 二 溝渠ノ巾及深サハ水量ニ應シ適當ノ勾配ヲ附スルコトヲ得

市ニ於テ溝渠ヲ築造セムトスルトキハ前項ニ依リ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 塵芥竝汚泥ノ容器ハ不透透質ノ材料ニシテ塵芥汚泥ノ漏泄セサル様造リタルモノヲ用フヘシ但シ木製ニシテ其ノ内外面ニ「コールタル」ヲ塗布シタルモノヲ用フルコトヲ得

塵芥竝汚泥ノ容器ハ事宜ニ依リ掃除監視吏員ノ承認ヲ經テ數人之ヲ共用スルコトヲ得

第三條 塵芥竝汚泥ノ運搬器ハ塵芥汚泥ノ漏泄セサル様之ヲ造リ且適當ノ蓋蓋ヲ設クヘシ

屎尿ノ運搬器ハ堅牢ニシテ臭氣ノ發散及屎尿ノ漏泄セサル様之ヲ造リ且密閉スヘキ蓋蓋ヲ設クヘシ

第四條 土地ノ狀況ニ依リ汚水ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄シ難キトキハ市長ノ認可ヲ經テ別ニ汚水溜ヲ設クルコトヲ得

汚水溜ハ家屋及飲料井戸ヲ距ル三間以上ノ地ニ於テ不透透

實ノ材料ヲ以テ汚水ノ漏泄セサル様之ヲ造リ且適當ノ覆蓋
ヲ設クヘシ但シ其ノ内外面ニ「コールタール」ヲ塗布シタル
木材ヲ用フルコトヲ得

汚水溜ノ汚水ハ充溢セサル様汲取り之ヲ公共溝渠又ハ適當
ノ場所ニ投棄スヘシ

第五條 屎尿ヲ肥料ニ供スルカ爲メ別ニ屎尿溜ヲ設ケントス
ル者ハ前條ノ規定ニ從フヘシ

第六條 左ニ掲ケル汚水ハ之ヲ公共溝渠及其ノ他ノ場所ニ排
泄又ハ投棄スルコトヲ得ス但シ相當ノ消毒方法ヲ施シ掃除
監視吏員ノ承認ヲ經タルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 劇毒性ノ物質ヲ含有スルモノ
- 二 甚シキ臭氣ヲ發スルモノ
- 三 多量ノ沈澱物ヲ混スルモノ
- 四 屍體解剖ニ依リ生シタルモノ
- 五 外科手術ニ依リ生シタルモノ
- 六 屍體ヲ洗滌シタルモノ
- 七 出產汚物ヲ洗滌シタルモノ

地ヲ占有スル義務者ノ掃除シタル汚物ノ處分ニ關シテハ知
事ノ認可ヲ經テ市長之ヲ定ム

第十一條 溝渠、汚水溜又ハ便所ノ築造修繕若クハ改造ノ工
事ヲ竣ハリタルトキハ掃除監視吏員ノ検査ヲ受クルニ非サ
レハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十二條 私人ニシテ本則ノ規定ニ違背シタル者ハ十日以下
ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第十三條 本則施行ノ際本則ニ抵触スル塵芥容器及塵芥運搬
器ハ明治三十三年七月三十一日迄ニ便所ハ同三十三年十二
月三十一日迄ニ改造スヘシ

●掃除監視吏員制服着用方

(明治三十三年四月十日)
訓令甲第三十六號

市役所

掃除監視吏員ニハ制服ヲ着用セシムヘシ
但シ服制ハ本年内務省訓令第三號ニ準據スヘシ

第十一編 警察 第七章 衛生 第十款 汚物掃除及清潔

八 其ノ他掃除監視吏員ニ於テ有害ト認ムルモノ

前項汚水ノ處分ニ關シテハ掃除監視吏員ノ指揮ニ從フヘシ
第七條 飲料井戸ハ汚濁シタルトキハ速ニ浚渫スヘシ

第八條 便所ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ但シ特殊ノ
事情アル場合ニ於テ相當ノ消毒方法及清潔方法ヲ施シ掃除
監視吏員ノ承認ヲ經タルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 便所ハ飲料井戸ヲ距ル三間以上タルヘキコト
- 二 便所ヲ設ケル地ハ地盤ヨリ三寸以上高クスヘキコト
- 三 屎尿溜ハ釉質ヲ施シタル陶器其ノ他不滲透質ノ材料ヲ
以テ造ルコト
- 四 屎尿溜ノ上部ハ厚サ三寸以上ノ「セメント」、「モール
タール」、「コンクリート」又ハ敲ヲ以テ漏斗狀ニ造ル
コト
- 五 便所ハ石、煉瓦又ハ厚板ヲ以テ見隠シテ設ケルコト

第九條 屎尿ノ運搬船ハ市長ノ指定シタル場所ノ外之ヲ繫留
スヘカラス

第十條 郡村ニ接近シタル地區ノ義務者又ハ三千坪以上ノ土

●掃除監視吏員定員俸給額並掃除
巡視採用規則及服務規律

(明治三十三年三月三十日)
縣令第二十六號

明治三十九年九月縣令第四七號、大正七年六月同
第三二號、九年一月同第五號改正

明治三十三年(三月)法律第三十一號ニ依リ津市宇治山田市四
日市市ニ掃除監視吏員ヲ置ク其定員俸給額並掃除巡視採用規
則掃除巡視服務規律左ノ通り定ム

掃除監視吏員定員俸給額

區	別	月	俸	額	定
掃除監視	掃除監視長	貳拾圓以上七拾圓以下	一	津市、宇治山田市	四
	掃除監視	拾五圓以上五拾圓以下	一	日市	一
	掃除監視	拾圓以上參拾五圓以下	一	市	一
	掃除監視	拾圓以上參拾五圓以下	四	市	三

掃除監視採用規則

- 第一條 掃除監視ハ試験ノ上採用スヘキモノトス但シ左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス
- 一 判任官以上ノ職ニアリタル者及文官任用令第三條ニ依リ判任官タルノ資格ヲ有スルモノ
 - 二 滿五年以上巡查看守ノ職ニアリタルモノ
 - 三 陸軍下士及下士適任證書ヲ有シ現役滿期トナリ又ハ戰時召集ヲ解除サレタルモノ
 - 四 滿一年以上廳府縣又ハ郡役所衛生課ノ雇員タリシモノ
 - 五 市書記又ハ附屬員ニシテ滿一年以上勤續セシモノ
 - 六 曾テ掃除監視ノ職ヲ辭シ滿三年ヲ經過セサルモノ

第二條

- 掃除監視ハ品行方正體力强健年齡滿二十一年以上五十年以下ニシテ左ノ諸項ニ抵觸セサルモノタルヘシ
- 一 重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレ若ハ同上ノ刑ニ處セラレヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ附セラレタルモノ及輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經過セサルモノ但シ舊法ニ依リ施體ノ刑ニ處セラレタルモノハ總テ本文ノ權衡ニ準ス
 - 二 賭博犯ノ處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
 - 三 身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サルモノ
 - 四 酒癖又ハ粗暴ノ行爲アル者

五 掃除監視ノ職ヲ免セラレ滿三年ヲ經過セサルモノ

第三條 掃除監視ノ試験ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

- 一 衛生規則ノ大要ニ通スルモノ
- 二 本邦歴史及地理ノ大略ニ通スルモノ
- 三 假名交リ論文及普通往復文ヲ作り得ルモノ
- 四 算術加減乗除ヲ爲シ得ルモノ
- 五 普通ニ楷書行書ヲ書キ得ルモノ

掃除監視服務規律

- 第一條 掃除監視ハ汚物掃除其他衛生ニ關スル法規ヲ服膺シ常ニ市街清潔ノ保持ニ注意スヘシ
- 第二條 掃除監視ハ清廉公平ヲ主トシ苟モ偏頗貧汚ノ行爲アルヘカラス
- 第三條 掃除監視職務ニ服スルトキハ制服ヲ著シ嚴正ニ執行スルヲ要ス然レトモ人ニ接スルニハ懇切丁寧ヲ旨トスヘシ
- 第四條 掃除監視ハ監督吏員ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其職務ニ關シ何等ノ名義ヲ以テスルモ總テ他人ノ贈遺ヲ受ケタルヘカラス

第十一編 警察 第七章 衛生 第十款 汚物掃除及清潔

コトヲ得ス

第五條 掃除監視ハ職務上ニ關スル機密ヲ洩洩スヘカラス

第六條 本規程ニ掲ケル外服務上ニ關シテハ凡テ一般市吏員ノ規律ニ從フヘシ

●塵捨場設置出願ノ件

(明治十六年十一月八日)
(甲第九十八號)

凡ソ官民有地ヲ問ハス人民共同ノ塵捨場ヲ設ケムトスルトキハ人家ニ接近セス且ツ飲用水ニ關係ナキ場所ニ於テ適應ノ地ヲ擇ミ衛生委員ノ検査ヲ經其ノ地目字番號反別及共同ノ町村名ヲ記シ並接續地ヲ略記セル繪圖面相添へ人民總代ノ者(民地ハ所有)ヨリ願出ツ可シ此旨布達候事

但シ塵捨場地種ノ義官有地ハ第三種民有地ハ第二種ニ編入除稅ノ管且ツ從前塵捨場ニ使用ノ場所ニシテ此ノ際該名稱ヲ付シ地目ヲ組換ヘキモノハ本文ニ準シ願出ツヘシ

●清潔方法施行手續

(大正十二年九月十一日
訓令甲第二十五號)

郡 役 所
市 役 所
警 察 署
同 分 署
町 村 役 場

清潔方法施行手續左ノ通定ム

清潔方法施行手續

第一條 清潔方法施行ニ關スル告示アリタルトキハ所轄郡役所、市役所、警察官署協議ノ上所定ノ期間内ニ於テ適宜日割ヲ定メ速ニ市長ハ之ヲ義務者ニ指示シ郡長ハ之ヲ町村長ニ通達スヘシ
町村長前項ノ通達ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ義務者ニ指示スヘシ

第二條 前條日割ヲ定メタルトキハ三日以内ニ郡市長ヨリ之

ヲ警察部長ニ報告スヘシ

第三條 清潔方法施行ノ際ハ市町村長ハ市吏員ヲ警察官署長ハ警察官吏ヲ派シ之カ監督ニ從事セシムヘシ

第四條 清潔方法施行ノ成績ハ終了後十日以内ニ別記様式ニ依リ市長ハ警察部長ニ町村長ハ郡長ニ報告シ郡長ハ五日以内ニ之ヲ警察部長ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十一月十一日 三重縣訓令甲第四十六號ハ之ヲ廢止ス

(別記) 清潔方法施行成績表

市町村名	清潔方法施行シタル戸數	検査ノ結果再施行シタル戸數	浚渫シタル				修繕シタル			
			井戸	下水溝	井戸	便所	汚水溜	下水溝	塵芥溜	
計										

第十一款 胞衣及産穢物

●胞衣其ノ他ノ産穢物取扱ニ關ス

ル件

(明治三十六年十二月二十五日)
(縣令第四十七號)

胞衣及其ノ他ノ産穢物取扱ニ關スル件左ノ通相定メ明治三十七年一月一日ヨリ施行ス

第一條 胞衣及其ノ他ノ産穢物ハ何レノ場所ニ拘ハラズ之ヲ投棄スルコトヲ得ス

第二條 胞衣及其ノ他ノ産穢物ハ社寺、公園、學校、病院及人家ヲ距ル六十間以上ノ地ニアラサレハ之ヲ焼却スルコトヲ得ス

第三條 胞衣及其ノ他ノ産穢物ハ社寺、公園、學校、病院、人家及飲用ノ河川、池沼、井泉等ヲ距ル五間以上ノ地ニシテ穴ノ深サ三尺以上ト爲スニアラサレハ之ヲ埋却スルコトヲ得ス

第四條 胞衣及其ノ他ノ産穢物ヲ運搬スルトキハ汚物ノ露出又ハ漏出ノ虞ナキ被包若ハ容器ヲ用ウヘシ

第五條 胞衣及其ノ他ノ産穢物取扱營業ヲ爲サントスル者ハ焼却場又ハ埋却場ノ位置、坪數、圖面及容器、運搬器ノ構造方法ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ其ノ變更セントスルトキ亦同シ

第六條 營業用ニ供スル焼却場又ハ埋却場ノ周圍ニハ適當ノ境界ヲ設ケ入口ニ其ノ名稱及營業者ノ住所氏名ヲ記シタル標本ヲ建ツヘシ

第七條 營業者ハ胞衣及其ノ他ノ産穢物取扱手数料ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ其ノ變更セントスルトキ亦同シ

第八條 營業者轉居、改氏名、廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ死亡ニ付テハ戶籍法第二百二十六條ノ義務者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 本令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十二款 屠畜及斃獸

●屠畜取締ニ關スル施行手續

(明治三十九年七月一日)
縣令第三十九號

附註

大正四年三月縣令第九號、六年一二月同第三七號、九年二月同第八號、一一年三月同第三一號改正

屠畜取締ニ關スル施行手續左ノ通之ヲ定ム

屠畜取締ニ關スル施行手續

第一條 屠場及屠畜業ニ關シ當廳ニ提出スル書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二條 屠場設立許可ノ申請ヲ爲スニハ左ノ各號ヲ具備スルヲ要ス

一 本籍住所氏名生年月

二 屠場ノ位置坪數及構造方法

三 屠場設立地及其ノ附近ノ見取圖並屠場内ノ平面圖

第三條 屠場ノ移轉改築増築大修繕ヲ爲サムトスルトキハ知

第十一編 警察 第七章 衛生 第十二款 屠畜及斃獸

事ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 屠場ノ工事落成シタルトキハ知事ニ届出テ検査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第五條 屠場主ニアラスシテ屠畜業ヲ爲サムトスル者ハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可申請書ニハ本籍住所氏名生年月及就業スヘキ屠場ヲ記載スヘシ

第六條 屠場又ハ屠畜業ヲ廢シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ屠場主又ハ屠畜業者ニシテ住所氏名ヲ變更シ若ハ死亡シタルトキ亦同シ

第七條 死亡ノ届出ハ戶籍法ノ死亡届出義務者ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第七條 正當ノ事由ナクシテ許可ヲ得タル日ヨリ一箇年ヲ經過シ仍ホ營業ヲ開始セス又ハ營業開始後六箇月以上休止シタルトキハ屠場ヲ廢シタルモノト看做ス

第八條 豫メ所轄警察官署又ハ屠畜検査員ニ届出ツルニアラサレハ屠畜ヲ爲スコトヲ得ス

第八條ノ二 屠畜取締ニ對シ左ノ區別ニ依リ検査手数料ヲ徴

收ス

牛一頭ニ付 金參圓
 馬一頭ニ付 金貳圓四拾錢
 羊、豚及生後一年未滿ノ懷妊駒一頭ニ付 金壹圓參拾錢
 前項ノ手数料ハ第八條ノ届出ト同時ニ所轄警察官署ニ前納スヘシ

第九條 屠場主又ハ屠畜業者ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニアラサレハ屠夫ヲ雇入ルルコトヲ得ス

前項許可ノ申請ヲ爲スニハ屠夫タラムトスル者ノ住所氏名生年月ヲ記載シ且ツ所轄警察官署ノ指定シタル醫師ノ健康證明書ヲ添附スヘシ

屠場主又ハ屠畜業者ニシテ屠殺解體ニ從事セムトスルトキハ前項健康證明書ヲ添附シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

屠夫ノ死亡又ハ解雇ハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第十條 屠場ニ於テ屠殺解體ニ從事スル者ハ執業中白色ノ上衣ヲ着用スヘシ

第十一條 屠場法施行規則第三條第二號ノ場合ニ於テハ警察官吏ニ届出テ且ツ屠殺ノ上ハ直ニ放血ヲ爲スヘシ

第十二條 許可ヲ受ケスシテ第三條ノ行爲又ハ第五條第一項ノ業ヲ爲シ又ハ第四條第六條第一項第八條第九條第一項第三項第四項第十條及第十一條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則
 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●屠場數及其ノ位置

(明治三十九年九月七日)

(縣令第四十九號)

屠場法第二條ニ依リ許可スヘキ屠場數及其ノ位置左ノ通之ヲ定ム

郡市名	屠場數	屠場位置
桑名郡	一	警察署所在地又ハ其ノ附近
員辨郡	一	同
三重郡	一	同
四日市市	一	同

●斃獸取締規則

郡市名	警察署所在地又ハ其ノ附近	附近
鈴鹿郡	同	上
河藝郡	同	上
安濃市	同	上
津市	同	上
一志郡	同	上
飯南郡	同	上
多氣郡	同	上
度會郡	同	上
宇治山田市	同	上
志摩郡	同	上
阿山郡	同	上
名賀郡	同	上
北牟婁郡	同	上
南牟婁郡	同	上

●斃獸取締規則

(明治三十六年十二月十一日)

(縣令第四十四號)

附則 大正元年九月縣令第四號改正

斃獸取締規則左ノ通相定ム

第十一編 警察 第七章 衛生 第十二款 屠畜及斃獸

第一條 本則ニ於テ斃獸ト稱スルハ病死及傷死シタル牛馬羊豚ヲ謂フ

第二條 斃獸ハ他ノ法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本則ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第三條 斃獸ハ速ニ埋却燒棄又ハ解體スヘシ

第四條 斃獸ヲ埋却燒棄又ハ解體セントスル者ハ其ノ場所及日時ヲ記シタル書面ニ獸醫ノ診斷書若ハ檢察書ヲ添ヘ所轄警察官署又ハ巡查派出所巡查駐在所ニ届出ツヘシ

斃獸ヲ解體シタル後埋却又ハ燒棄セントスルトキハ前項ノ届書ニ其ノ場所及日時ヲ併記スヘシ

單ニ斃獸ノ剥皮ノミヲ爲スモノト雖之ヲ解體ト看做ス

第五條 斃獸ヲ他人ニ賣渡又ハ譲與スル者ハ獸醫ノ診斷書若ハ檢察書ニ自己ノ認印ヲ捺捺シ之ヲ買受人又ハ譲受人ニ交附スヘシ

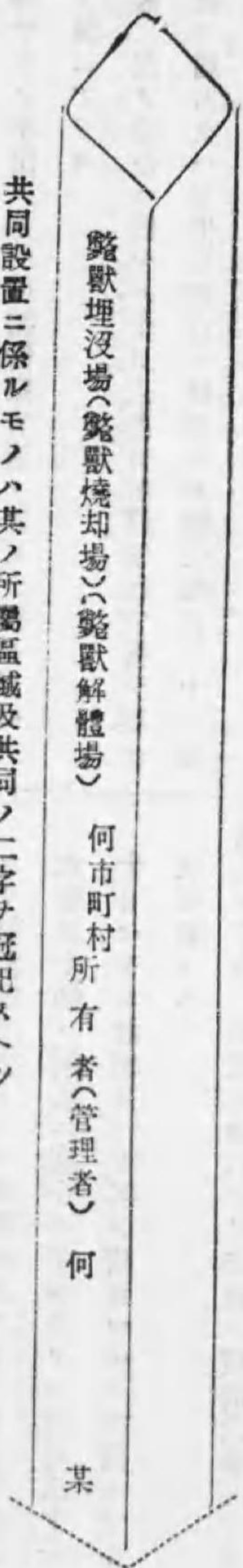
第六條 獸醫ノ作製スヘキ診斷書若ハ檢察書ニハ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

- 一 所有者又ハ管理者ノ住所氏名
 - 二 牛馬羊豚及牝牡ノ別
 - 三 年齢毛色及特徴
 - 四 病死傷死ノ年月日
 - 五 病名
 - 六 負傷ノ種類部位及負傷ノ年月日時
 - 七 診断検査ノ別及其ノ年月日
- 第七條 斃獸ハ斃獸埋没場斃獸焼却場斃獸解體場又ハ解體室ヲ備ヘタル化製場ニアラサレハ埋却燒棄又ハ解體スルコトヲ得ス
- 第八條 斃獸埋没場斃獸焼却場又ハ斃獸解體場ヲ新設セントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ所轄警察官署ヲ經由シテ當廳ニ申請シ許可ヲ受クヘシ其ノ政變變更セントスルトキ亦同シ
- 一 位置及坪數
 - 二 構造仕様書及其ノ圖面
 - 三 敷地ヲ中心トシ外方百二十間以内ノ見取圖 (國道縣道鐵道公園社寺學校病院人家及飲用ノ河川池沼井泉等ニ對スル距離ノ明記ヲ要ス)

- 四 工事落成期日
- 工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出使用ノ許可ヲ受クヘシ
- 許可後ト雖土地ノ狀況ニ依リ公害アリト認ムルトキハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ使用ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ
- 第九條 斃獸埋没場斃獸焼却場又ハ斃獸解體場ヲ新設スルハ國道縣道鐵道河川ニ沿ハス公園社寺學校病院人家等ヲ距ル六十間 (燒却場ニ在リ) 以上ニシテ土地高燥飲料水ニ障害ナキ地ヲ選フヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ公害ナシト認ムルモノハ本條ノ距離以内ト雖特ニ許可スルコトアルヘシ
- 第十條 斃獸埋没場斃獸焼却場ニハ周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ但シ斃獸埋没場ニ在リテハ木柵又ハ栽樹ヲ以テ塀牆ニ代フルコトヲ得
- 第十一條 斃獸解體場ハ左ノ制限ニ從ヒ構造スヘシ
- 一 周圍ニ高サ六尺以上ノ塀牆ヲ設クルコト
 - 二 解體室ノ四壁下部三尺通ハ不滲透質 (石、煉瓦「コンクリート」漆喰

- 敵ノ類以下)ノ材料ヲ以テ作ルコト但シ止ムヲ得サル之ニ依フ
- トキハ板張ト爲ステ得ト雖「ペンキ」ヲ塗布スルヲ要ス
- 三 解體室ノ地盤ハ不滲透質ノ材料ヲ用キ適當ノ勾配ヲ附シ小溝ヲ設ケテ汚水溜ニ通セシムルコト
- 四 換氣導光ニ適當ナル窓扉ヲ設クルコト
- 五 汚水溜及不潔物溜ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ解體室外ニ設ケ適宜ノ覆蓋ヲ附シ雨水ノ流入ヲ防ク裝置ヲ爲スコト

- 第十二條 斃獸埋没場斃獸焼却場斃獸解體場ハ常に清潔ニ掃除シ修繕ヲ怠ルヘカラス
- 第十三條 共同設置ニ係ル斃獸埋没場斃獸焼却場斃獸解體場ハ管理者ヲ定メ所轄警察官署ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第十四條 斃獸埋没場斃獸焼却場斃獸解體場ニハ場外見易キ所ニ左記様式ノ標木ヲ建ツヘシ



共同設置ニ係ルモノハ其ノ所屬區域及共同ノ二字ヲ冠記スヘシ

- 第十五條 斃獸又ハ解體シタル革骨筋肉内臟等ヲ運搬スルトキハ被包ヲ用キ若ハ覆蓋アル容器ニ收メ臭氣ノ發散及血液汚汁ノ漏出ヲ防クヘシ
- 第十六條 解體シタル筋肉及内臟ハ直ニ化製スルモノヲ除ク
- 第十一編 警察 第七章 衛生 第十二款 屠畜及斃獸

- 外監督官吏ノ面前ニ於テ一寸以下ニ細截シ濃厚綠礮水又ハ石炭酸水若ハ石灰乳ヲ灌キタル上ニアラサレハ他ニ移スコトヲ得ス
- 第十七條 解體シタル筋肉及内臟ハ食用ノ目的ヲ以テ販賣又

ハ授與スルコトヲ得ス

第十八條 斃獸ヲ埋却スル擴穴ハ牛馬ニ在リテハ深サ六尺以上羊豚ニ在リテハ深サ三尺以上トス

第十九條 埋没シタル斃獸ハ之ヲ發掘スルコトヲ得ス但シ止ムヲ得サルノ事由アリテ所轄警察官署ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニアラス

第二十條 左ノ場合ニ於テハ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ニ届出ツヘシ但シ死亡ニ付テハ戶籍法第二百二十六條ノ届出義務者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一 斃獸埋没場斃獸焼却場斃獸解體場ヲ賣渡又ハ讓與シタルトキ

二 廢却シタルトキ

三 所有者轉居改氏名又ハ死亡シタルトキ

前項第一號ノ届書ニハ買受人又ハ讓受人連署スヘシ

第二十一條 本則第三條、第四條第一項第二項、第五條、第六條、第七條、第八條第一項第二項、第十二條、第十三條、第十四條、第十五條、第十六條、第十七條、第十八條、第

十九條、第二十條ニ違背シタル者及診斷又ハ檢案セスシテ診斷書若ハ檢案書ヲ附與シタル斃獸ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第二十二條 從來許可ヲ受ケタル斃牛馬捨場ハ本則施行ノ日ヨリ斃獸埋没場トシテ繼續使用スルコトヲ得但シ其ノ設備

本則第十條ノ規定ニ適合セサルモノハ明治三十七年六月三十日マテニ設備スヘシ其ノ期日マテニ設備セサルモノハ爾後失効トス

第二十三條 羊豚生後六ヶ月未滿ノ犢駒及傷死シタル牛馬ニハ當分ノ内本則第四條ノ届書ニ斃獸ノ診斷書若ハ檢案書ヲ添附セサルコトヲ得

第二十四條 斃獸焼却場又ハ斃獸解體場ノ設置ナキ市町村内ニ於テハ當分ノ内警察官ノ承認ヲ得タルトキハ本則第九條ノ制限ニ適合シタル場所ニ限り斃獸ヲ焼却又ハ解體スルコトヲ得

第二十五條 本則ハ明治三十七年一月一日ヨリ施行ス

第二十六條 明治十五年(一月)三重縣甲第十九條斃牛馬取扱

規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●健康證ヲ交付シタル畜牛斃死又ハ屠殺ノトキ健康證還納方

(明治三十七年九月六日) 縣令第五十一號

畜牛結核病豫防法施行規則第十條ニ依リ健康證ヲ交付シタル畜牛斃死シ又ハ屠殺シタルトキハ十日以内ニ其ノ健康證ヲ所轄警察官署ニ還納スヘシ

本令施行前ニ斃死シ又ハ屠殺シタルモノノ健康證ハ此ノ際之ヲ還納スヘシ

本令ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十三款 畜鶏場

●畜鶏場取締規則

(明治二十七年十一月二十日)
縣令第五十九號

明治三十一年九月縣令第四二號、四〇年一二月同
第五六號、四二年四月同第三〇號改正

畜鶏場取締規則左ノ通相定ム

畜鶏場取締規則

第一條 畜鶏場トハ營業ト自用トヲ問ハス五十羽以上ノ鶏ヲ飼養スルモノヲ云フ

第二條 畜鶏場ヲ設ケントスルモノハ警察署分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條 畜鶏場設置願書ニハ畜鶏場ヲ設ケントスル郡市町村大字番地及ヒ人家ヘノ距離ヲ詳記シ且ツ四隣ノ模様ヲ記載シタル圖面ヲ添フヘシ

第四條 畜鶏場ハ左ノ各項ニ從フヘシ

第十一編 警察 第七章 衛生 第十三款 畜鶏場

一 畜鶏場ハ市街及人家密接ノ場所ニ在テハ人家ヲ距ル五間以上ノ地ヲ選フヘシ

二 畜鶏場内ハ勉メテ清潔ナラシムヘシ

三 畜鶏場内ノ悪水溝ハ能ク疎通シテ常ニ悪水ヲ停滯セシムヘカラス

四 鶏糞ヲ貯藏若ハ乾燥シ又ハ惡臭ヲ發スヘキ餌料ヲ貯藏若ハ煮煮スルトキハ臭氣ノ人家ニ達セサル様相當ノ注意ヲ爲スヘシ

五 病鶏若クハ病死シタル鶏ハ販賣スヘカラス

第五條 畜鶏場ニハ主務官吏ヲ派シ實況ヲ視察セシムルコトアルヘシ

第六條 畜鶏場ハ許可ノ後ト雖モ公衆衛生上有害ト認ムルトキハ相當ノ施設又ハ移轉ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 畜鶏場ヲ止メタルトキハ十日以内ニ警察署分署ニ届出ツヘシ

第八條 第二條第四條第五項ニ違ヒタルモノ及ヒ第四條第二項第三項ニ違ヒ官署ノ督促ヲ受クテ從ハサルモノハ拘留又

ハ科料ニ處ス

附則

第九條 本則ハ五十羽以上ノ鷄又ハ鷄鷄ヲ合セ五十羽以上ヲ飼養スル者ニ亦之ヲ適用ス

第十條 從來届出ヲ爲シタル畜鷄場ニシテ第四條第一號ノ制限ニ適合セサルモノハ明治四十一年六月三十日マテニ移轉又ハ改修スヘシ

●畜鷄場取締規則施行手續

(明治二十七年十一月二十日)
(訓令甲第八十六號)

附則 明治三十一年九月訓令甲第八一號、三十九年二月
附第五六號改正

警察 署
警察 分署

畜鷄場取締規則施行手續ハ左ノ通相定ム

畜鷄場取締規則施行手續

第一條 畜鷄場取締規則ニ依リ該場設置ヲ願出ルモノアルト

キハ實地ヲ調査シ速ニ許可ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條 畜鷄場免許證ハ許可ノ指令ヲ以テ代用スヘシ

第三條 警察署分署ニ於テハ畜鷄場許可人名簿ヲ備ヘ開庭ノ都度加除スヘシ

第四條 (削除)

第五條 (削除)

第六條 畜鷄場ヲ許可シタル後公衆衛生上有害ニシテ移轉ヲ命スルノ必要アリト認メタルトキハ其事由ヲ詳記シ縣廳ニ具申スヘシ

第七條 畜鷄場ハ時々巡視シ規則第四條各項ノ遵守ヲ怠ルコトナカラシムヘシ

第十四款 家畜傳染病豫防

(大正十三年五月二日)
(縣令第十二號)

家畜傳染病豫防法施行細則左ノ通定ム

家畜傳染病豫防法施行細則

第一條 家畜傳染病豫防法(以下單ニ豫防法ト稱ス)第二條ノ規定ニ依ル届出ハ左ノ各號ヲ具シ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ船長鐵道係員軌道係員ノ届出ニ付テハ尙其ノ家畜ヲ積込タル港又ハ驛並送付目的地ノ港又ハ驛ヲ明ニスルコトヲ要ス

一 病 名

二 畜類、種類、性、年齢、毛色、用途

三 發病月日

四 斃死シ若ハ殺シタルモノニ在リテハ其ノ月日時

五 所有者又ハ保管者ノ住所氏名

第十一編 警察 第七章 衛生 第十四款 家畜傳染病豫防

第二條 前條ノ届出ヲ受ケタル警察官吏又ハ家畜防疫委員ハ

第一號様式ニ依リ直ニ知事ニ報告シ且市町村長ニ通報スヘシ

豫防法施行規則第一條第一項ノ規定ニ依ル報告通報ノ場合亦同シ

第三條 屠畜検査員屠畜検査ノ際家畜傳染病ヲ發見シタルト

キハ第二號様式ニ依リ屠場所轄警察官署長ニ報告シ其ノ報告ヲ受ケタル警察官署長ハ直ニ之ヲ知事ニ報告シ且市町村長ニ通報スヘシ

第四條 第二條及第三條ノ規定ニ依リ通報ヲ受ケタル町村長ハ其ノ旨速ニ郡長ニ報告スヘシ

第五條 家畜傳染病終熄シタルトキハ警察官署長ハ其ノ狀況ヲ具シ速ニ知事ニ報告スヘシ

第六條 豫防法第十條但書ニ依リ發掘ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ所轄警察官署長ヲ經テ知事ニ願出ツヘシ

第七條 警察官署ニ於テ前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ實地調

(第二號樣式)

家畜傳染病發見報告

病名	畜類	種類	性	年齢	毛色	用途	検査月日	屠場名	所有者又ハ保管者住所氏名

備考

用途欄ニハ從來ノ用途ヲ記入スルコト
 病畜屠場へ來ル迄ノ所在地及經過地ヲ明記スルコト
 其ノ他參考トナルヘキ事項
 右及報告候也

年月日

宛

官氏 名印

(第三號樣式)

家畜斃死報告 (何月分)

病名	畜類	種類	性	年齢	毛色	用途	斃死月日	斃死場所

備考
 斃死多キ疾病ニ付テハ其ノ原因
 其ノ他參考トナルヘキ事項

注意 斃死場所ノ欄へハ市町村大字名ヲ記入スルコト
 右及報告候也

年月日

宛

警察官署長印

地形ニ據リ其儀ヲ行ヒ難キ場所ハ垣溝ノ類ニテ境界ヲ立ツ
ヘシ

墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木燐燐等ヲ存スヘカラス其從前
ヨリ現存スル者ハ此限ニ非ス

第六條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第七條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニ據リ六尺
ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルモノハ格別ナリ
トス

第八條 墓地及火葬場ハ清潔ヲ主トシ持除及ヒ修繕ヲ怠ルヘ
カラス

墓地ト火葬場ト相連ルモノハ第三條及第五條ニ據リ判然區
域ヲ立火葬ノ遺骨ヲ火葬場内ニ埋ムルコトヲ不得

第九條 墓地及ヒ火葬場ニハ管理者ヲ置キ其姓名ヲ所轄警察
署分署ニ該所ヲ經テ 及ヒ戶長役場ニ届置クヘシ

第十條 碑表ヲ建設セントスル者ハ墓地ノ内外ヲ問ハス其碑
文及建場並用材ノ寸法等ヲ明記シ所屬戶長ノ奥印ヲ受ケ警
察署分署ニ該所ヲ經テ 願出ツヘシ

第十二條 寓居ノ者其死體ヲ原籍地ニ引取リ埋葬又ハ火葬セ
ントスルトキハ死亡地ノ戶長ニ就キ認許證ヲ申請原籍地戶
長ノ檢閱ヲ經テ之ヲ墓地又ハ火葬場ノ管理者ニ出スヘシ又
寄留ノ者本項ノ場合ニ於テハ其旨ヲ死亡地戶長ニ届出テ而
シテ認許證ヲ受クルノ手續ハ原籍地方ノ規則ニ從フモノト
ス

第十三條 左ノ死體ハ成規ノ時限内ト雖モ火葬又ハ埋葬スル
コトヲ得

- 一 傳染病ノ死體及産婦四ヶ月已上ノ死胎
- 一 刑死遺體ヲ引 又ハ變死行斃等ノ遺體ニテ相當官吏ノ認
可ヲ得タルモノ

第十四條 戶長ハ第十一條ノ書面ヲ領收スルニ非レハ埋葬又
ハ火葬ノ認許書式第 二號ヲ與ヘサルモノトス

但出寄留ノ者ハ當分第十一條ニ據リ難キ儀モアルヘキニ
ツキ右ノ分ニ限リ便宜斟酌スルモノトス

第十五條 墓地及ヒ火葬場ノ管理者ハ葬主ヨリ領收シタル戶
長ノ認許證ヲ一箇年間保存シ警察官吏ノ求メアルトキハ之

但死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死年月日建立者ノ姓
名ヲ記スルニ止リ諱傳銘贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓表ハ警
察署分署ノ許可ヲ受ル限リニ非ス

第十一條 死體ヲ埋葬又ハ火葬セントスル者ハ左ノ書面ヲ添
ヘテ市町村長ノ認許證ヲ申請シ之ヲ墓地又ハ火葬場ノ管理
者ニ差出スヘシ但シ火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルトキハ其旨ヲ墓
地管理者ニ通報スヘシ

一 醫師ノ施治中ニ在ル患者死亡シタルトキハ主治醫ノ死
亡診斷書

一 醫師ノ施治ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノニ
在リテハ醫師ノ死體檢案書

一 變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ死體檢案書ニ檢視官ノ檢
印アルモノ但檢視官ニ於テ醫師ノ立會ヲ命セサルトキ
ハ葬主ヨリ醫師ノ死體檢案書ヲ受ケ檢視官ノ檢印ヲ受
クルヲ要ス

一 囚徒ノ死體ヲ引取埋葬又ハ火葬セントスルモノハ獄醫
ノ死亡診斷書寫ニ司獄官ノ檢印アルモノ

ヲ揭示スヘシ

第十六條 墓地ノ管理者ハ墓籍表ニ繪圖ヲ調製シ置クヘシ

第十七條 改葬セントスル者ハ其事由ヲ具シ所屬戶長ノ奥印
ヲ受警察署分署ニ該所ヲ經テ 出願許可ヲ受ケ其書面
寫ヲ葬地ノ管理者ニ出シテ之ヲ執行スヘシ

改葬ハ成可寒冷ノ候ニ於テシ又石炭酸硫酸等ヲ以テ防臭
ノ手當ヲナスヘシ

第十八條 假埋葬ハ戶長ニ於テ直チニ第十一條第三款ノ書面
ヲ領收シ假埋葬ノ證ヲ作り之ヲ墓地ノ管理者ニ渡シ置キ後
日引取人アルトキハ第十二條ニ照シ置スヘシ

第十八條ノ二 墓地又ハ火葬場ニシテ本則第二條若ハ第三條
規定ノ距離ヲ有セサルニ至リ其ノ位置不適當ト認ムルトキ
又ハ衛生、風紀其ノ他公益上障害アリト認ムルトキハ改築
移轉、變更若ハ廢止ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條 本則第四條但書第七條第八條第九條第十五條及第
十六條ニ違反シタル者ハ五日以下ノ拘留又ハ壹圓五拾錢以
下ノ料料ニ處ス

書式

第一號(火葬場ニ係ル分モ亦此式ニ依ル)

墓地新設願(料紙半)

何國何郡何町村字番地種

一 荒蕪地又ハ反別(民有地ナレハ持主)

地價何程

地租何程

右當町(村)墓地ハ是迄何ヶ所有之(是迄一ヶ所モ無之)候得共何ヶ(不都合ニテ増設又ハ新設ヲ要スヘキ事實即チ墓(地)反別ハ何反人口何人ニテ實際狹隘其他ノ類)ニテ今般不得記増設(新)致度(人家ヲ距ル何十間國道其他ノ關)衛生上障害無之場所ニテ則チ衛生委員ノ檢査意見書及圖面相添ヘ此段奉願候以上

年 月 日

何國郡町村人民總代

同町村番屋敷

氏 名 印

此式ニテ五人以上連名スヘシ

縣令宛

- 一 圖面ニハ墓地願立地ヨリ人家國道縣道鐵道大川飲用水等第二條ニ掲ケタル種目ニヨリ距離ノ間數ヲ記入スヘシ而シテ右種目ナキ場所ハ該種目ナキ旨(大川無之ノ類)ヲ明記スヘシ
- 一 圖面ニハ前項種目ヲ記スノ外墓地願立地ニ接續セル地形(山、田)地勢(高燥或濕)ヲ明記スヘシ

第二號

埋葬(火葬)認許證(料紙半)

「戸長ノ官印ヲ以テ割捺ス

何年月日 午前何時死亡

國郡町村番屋敷

華士族平民某父母兄弟妻子等ノ別

氏 名

年 月 日

右何年月日 午前何時以後ニ於テ埋葬(火葬)ノ儀ヲ認許ス

何年月日

戸長名 印

第三號(死體ニ關スル場合)

埋葬(火葬)認許證申請書

一 本籍族稱及死亡者家族ナルトキハ戸主トノ續柄

一 氏名及出生ノ年月日

一 男女ノ別

一 死亡ノ年月日時

一 死亡ノ場所

右死體ニ對スル埋葬(火葬)認許證下付相成度別紙醫師ノ死亡診斷書(死體檢案書)相添此段申請候也

年 月 日

住所

氏 名 印

第十一編 警察 第七章 衛生 第十五款 墓地及埋火葬

市町村長宛

- 一 本籍地ハ廳府縣國郡市町村大字名番地(番屋敷)ヲ記スヘシ
- 一 自殺者、變死者等ニシテ本籍地族稱及戸主トノ續柄明瞭ナラサルモノハ不詳ト記スヘシ
- 一 氏名ハ戸籍上ノ氏名ヲ記シ初生兒ニシテ名ナキモノハ初生兒無名ト記シ死體ノ棄兒ニ係ルトキハ死體棄兒ト記スヘシ
- 一 自殺者、變死者等ニシテ氏名及出生ノ年月日明カナラサルモノハ不詳ト記スヘシ
- 一 男女ノ別ハ死亡者カ庶子、私生子ナルトキ又ハ戸主ナルトキ若ハ自殺者變死者等ニシテ本籍族稱及戸主トノ續柄、氏名等明瞭ナラサル場合ニ記載スヘシ
- 一 經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明カナラサルモノハ不詳ト記スヘシ
- 一 病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラス死亡ノ年月日時ヲ記スヘシ其明瞭ナラサルモノハ不詳ト記スヘシ
- 一 死亡ノ場所ハ郡市町村大字名番地(番屋敷)ヲ記スヘシ若

シ自殺者、變死者等ニシテ漂著セル死體ナルトキハ其ノ漂著シタル場所ヲ記スヘシ此ノ場合ニハ其ノ下ニ漂著ト記スルヲ要ス

第四號(死胎ニ關スル場合)

埋葬(火葬)認許證申請書

- 一 父(私生子ノ場合)ノ本籍族稱及父又ハ母カ家族ナルトキハ戸主トノ續柄
 - 一 父(同前)ノ氏名
 - 一 父ノ出生ノ年月日(私生子ノ場合ニ在リテハ之ヲ除ク)
 - 一 母ノ出生ノ年月日
 - 一 分娩ノ年月日
 - 一 分娩ノ場所
 - 一 死胎ノ男女ノ別
 - 一 嫡出子、庶子、私生子ノ別
- 右死胎ニ對スル埋葬(火葬)認許證下付相成度別紙醫師(産婆)ノ死産證書(死胎檢案書)相添此段申請候也
- 年 月 日

住所

氏 名 ㊦

市町村長宛

- 一 死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ何レニ拘ハラス其ノ母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 一 分娩ノ場所ハ郡市町村大字名番地(番屋敷)ヲ記スヘシ
- 一 鬼胎等ニシテ死胎ノ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル場合ニ在リテハ不詳ト記スヘシ
- 一 此ノ細則第十三條ノ死體埋火葬ノ認許證ニハ「何年月日時以後ニ於テ」ノ一項ヲ刪ル者トス
- 一 初生兒等ニテ死者ノ氏名ナキ者ハ「初生兒無名」又ハ「死胎」ト記スヘシ

●市町村ニ於テ火葬場設置ニ關スル件

(明治三十年八月三日 訓令甲第六十三號)

郡	役	所	
市	役	所	
町	村	役	場

本年(三月)法律第三十六號ヲ以テ傳染病豫防法ノ制定ニ依リ傳染病患者ノ死屍ハ火葬スルヲ本則トセラレタルニ就テハ此ノ際火葬場ノ設置アル市町村ニ於テハ可成完全ナラシメ未ダ設置ナキ市町村ハ速ニ設置シ萬一傳染病發生ノ場合ニ於テ差支無之様取計フヘシ

第十六款 衛生試験

●衛生試験規程

(大正十一年三月三十一日)
(縣令第三十二號)

衛生試験規程左ノ通定ム

衛生試験規程

- 第一條 三重縣警察部ニ於テ公衆ノ依頼ニ應ジ衛生ニ關スル物品ノ試験ヲ行フ
- 第二條 試験ヲ依頼セムトスル者ハ別記様式ノ試験依頼書ニ試験手數料及現品ヲ添ヘ警察部衛生課ニ差出スヘシ但シ試験ノ目的又ハ物品ノ性質若ハ事務ノ都合ニ依リ依頼ニ應セサルコトアルヘシ
- 變敗シ易キ物品又ハ鑛泉ハ豫メ試験依頼書ヲ差出シ置キ當廳ノ指定スル期日ニ現品ヲ差出スヘシ
- 第三條 飲料水及鑛泉ハ試験スヘキ水ヲ以テ再三洗滌シタル清淨ノ硝子壺ニ容レ新シキ「キルク檢」又ハ硝子栓ヲ以テ密封ス
- 第十一編 警察 第七章 衛生 第十六款 衛生試験

塞シ其ノ他ノ物品ハ清潔ナル適當ノ容器ニ納メ内容漏内セサル様密閉スヘシ但シ細菌検査ヲ要スルモノハ消毒セル容器ニ容レ更ニ密封スルコトヲ要ス

第四條 試験物品ノ容器ニハ其ノ容器毎ニ品名及試験依頼者ノ住所氏名ヲ記シタル名箋又ハ木札ヲ付スヘシ

第五條 試験ノ爲差出スヘキ物品ノ數量左ノ如シ

定性分析	二升
定量分析	五升
水 衛生上適否	五合
製氷用適否	一升
工業用適否	一升
鑛泉 定性分析	三升
鑛泉 定量分析	五升
氷雪 衛生上適否	五斤以上
飲料 適否	二合
乳汁 脂肪及比重検査	二合
定量分析	三合(但シ人乳五勺)

酒類	防菌劑検査	二合
燒酎	定量分析	一升
焼酎	定量分析	一升
酢	同	五合
醬	同	一升
味噌	同	百匁
肉製	同	百匁
豆乳	定量分析	五合
清涼飲料水	衛生上適否 定量分析	四合
麵類	定量分析	一斤
素麵	同	百匁
澱粉	同	同
茶	同	五十匁以上
菓子	同	半斤以上
罐詰類	同	三箇以上
調製飴、砂糖、水飴、蜜	同	五十匁
飲食物用器具	衛生上害否	一個以上

玩具	器具	同
著色料	同	五匁以上
衣類	同	一尺平方以上
化粧品	同	二十匁以上
營養品	成分検査	同
糞便	虫卵検査 細菌検査	拇指頭大
尿	糖或蛋白検査等	五匁
咯痰	細菌検査	少量
血液	ワツセルマン 凝集 細菌	反應五、〇グラム 反應二、〇グラム 検査二、〇グラム

第六條 試驗ノ爲差出シタル物品ニシテ試驗上必要アルトキハ更ニ提出セシムルコトアルヘシ

第七條 試驗ノ爲差出シタル物品ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第八條 試驗終了シタルトキハ試驗成績書ヲ交付ス

第九條 試驗手数料ハ大正十年三重縣令第六十四號ノ規程ニ依リ現金ヲ以テ納付スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ在リテハ手数料ヲ徴收セス

- 一、當廳ニ於テ公衆衛生上必要アリト認メタルトキ
- 二、明治二十二年法律第十號並明治三十三年法律第十五號ニ依リ取締ヲ受クヘキ藥品、飲食物及其ノ他ノ物品ニシテ當該營業者ヨリ其ノ取締事項ニ就キ試驗ヲ依頼シタルトキ

第十條 試驗依頼者ニシテ特ニ技術員ノ出張ヲ要求スルトキハ試驗手数料ノ外其ノ官職ニ相當スル旅費日當及試験器具ノ運搬費ヲ負擔スヘシ

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
(別記様式)

試驗依頼書

住所 職業氏名

第十一編 警察 第七章 衛生 第十六款 衛生試驗

(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ位置及代表者ノ氏名ヲ記載スルコト)

一、受 験 品 名

一、試驗ノ目的又ハ分析ヲ要スル成分

一、製造又ハ採取ノ日時及場所

一、製造方法(飲食物其ノ他調製品ノ場合)

一、使用ノ目的

右(現品相添)試驗依頼候也

年月日

右氏

名

知事宛

●衛生試驗手数料徴收ニ關スル件

(大正十年十二月二十三日)
(縣令第六十四號)

衛生試驗手数料徴收ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 縣ニ於テ依頼ヲ受ケ飲食物其ノ他ノ試驗検査又ハ分析ヲ爲ストキハ本規程ニ依リ手数料ヲ徴收ス

第二條 手数料ノ額左ノ如シ

酒類定量分析	一件二付	金參圓
酒類防腐劑検査	一件二付	金參拾錢
清涼飲料水定量分析	一件二付	金貳圓
飲食物衛生上害否検査	一件二付	金壹圓
飲食物用器具衛生上害否検査	一件二付	金壹圓
著色料衛生上害否検査	一件二付	金壹圓
玩具衛生上害否検査	一件二付	金壹圓
豆乳定量分析	一件二付	金壹圓五拾錢
醬油定量分析	一件二付	金參圓

乳汁定量分析	一件二付	金貳圓
乳汁脂肪比重検査	一件二付	金貳拾錢
乳汁衛生上適否検査	一件二付	金壹圓
化粧品衛生上害否検査	一件二付	金壹圓
營養品成分検査	一件二付	金參圓
糞便顯微鏡的検査	一件二付	金參拾錢
糞便培養試驗	一件二付	金壹圓
尿糖定量分析	一件二付	金五拾錢
尿糖定性分析	一件二付	金參拾錢
尿蛋白定量分析	一件二付	金五拾錢
尿蛋白定性分析	一件二付	金參拾錢
略痰顯微鏡的検査	一件二付	金參拾錢
略痰培養試驗	一件二付	金壹圓
略痰動物試驗	一件二付	金貳圓
水定性分析	一件二付	金貳圓
水定量分析	一件二付	金參圓
水衛生上適否検査	一件二付	金貳拾錢

五百四十

製水用水検査	一件二付	金貳圓
工業用水検査	一件二付	金貳圓
鑛泉定性分析	一件二付	金貳圓
鑛泉定量分析	一件二付	金五圓
血液ワツセルマン反應検査	一件二付	金壹圓
血液ツベルクリン反應検査	一件二付	金參拾錢
血液凝集反應検査	一件二付	金壹圓

前各號ニ掲クサルモノノ手数料ノ額ハ金貳拾錢以上金五圓以内ノ範圍ニ於テ知事之ヲ定ム

第三條 手数料ハ供試品提供ノ際之ヲ徴收ス

附 則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七款 統計及報告

●衛生上ニ關スル諸表様式

(明治二十年十二月十六日)
(訓令第千五百六十二號)

附註 明治二十三年一〇月訓令甲第八三號、二六年一月
同第二號、三四年一月同第六號、同第七號、同一
月同第六號、四一年七月同第四三號、四三年五月
同第一七號、大正二年一二月同第二七號、同第二八
號、大正三年一月同第二號、六年一月同第二一號
一一年二月同第二號、同年四月同第一一號、同年九
月同第二八號改正

郡市役所
町村役場

衛生上ニ關スル諸表様式別紙ノ通相定候條自今右様式ニ依リ
調製左記期限ニ進達スヘシ

但明治十六年七月乙第百二十六號達及同年八月乙第百三十

第十一編 警察 第七章 衛生 第十七款 統計及報告

二號達相廢ス

町村長ヨリ郡長ヘ進達スヘキ期限

第一、二、三號表

毎年一月三十一日

第四、十二號表

毎年一月二十日

第六、七、八號表

毎年二月末日

第九、十號表

毎年七月十日

第十四、十五、十六、十七號表

毎年二月末日

郡市長ヨリ知事ニ進達スヘキ期限

第一、二、三號表

毎年二月二十日

第四、十一、十二、十八號表

毎年二月十五日

第六、七、八、十三號表

毎年二月末日

第九、十號表

毎年七月三十一日

第十四、十五、十六、十七號表

毎年三月十五日

第一號乃至第三號第六號第十四號乃至第十七號ノ各表ニ要ス
ル職業若ハ病類ハ左ノ區別ニ依リ調理スヘシ(三十七年一月
訓令甲第七號)

職業ノ部

- 一、農 作 業
自作、自作兼小作、小作、園藝、造園
- 二、畜 産 業
牧畜、搾乳、養禽
- 三、蠶 業
養蠶、蠶種製造
- 四、其ノ他ノ農業
- 五、林業及狩獵
森林業、林產物業、狩獵
- 六、漁業、製鹽業
漁撈、採藻、魚介藻養殖、製鹽、其ノ他ノ水産業
- 七、採礦冶金業
金屬礦業、石炭礦業、石油礦業、其ノ他ノ礦業
- 八、土石採取業
セメント、石膏、石灰類製造、瓦、土管製造、煉瓦製造、陶磁器、土器製造、七寶燒、珪瑯品製造、硝子、硝子品製造、其ノ他ノ窯業
- 九、窯 業

- 十、金 屬 工 業
精鍊業、金屬壓延業、釘、鉄、針類製造、鐵葉職、鐵藥品製造、銅索、鐵鎖等製造、針金細工、鍛冶業、鑄物業、銅器、真鍮器、青銅器類製造、其ノ他ノ金屬工業
- 十一、機械器具製造業
度量衡器、計測器、科學的機械器具類製造、時計製造、電動機、電氣機械器具製造、原動機製造（汽鍋、瓦斯發生機等ヲ含ム）、銃砲、彈丸、水雷製造、紡績機械器具製造、農具、土工具製造、機關車、車輛製造、造船業、金屬工用、木工用機械器具製造、航空機製造、其ノ他ノ機械器具製造
- 十二、化學工業
工業藥品、醫藥藥品製造、賣藥、賣藥類似品製造、染料、顔料及其原料類製造、石鹼製造、化粧品類製造、燐寸、附木製造、火藥、其他ノ爆發物製造、油脂類製

- 造、蠟燭製造、護謨、セルロイド、防水品製造、漆、其他ノ塗料製造、肥料製造、化學分析、檢査ニ關スル業、其他ノ化學工業
- 十三、織 維 工 業
生絲製造、人造絹絲製造、擦絲製造、真綿、ペニール製造、綿製造、綿絲紡績業、其他ノ紡績業、織物業、毛織物業、莫大小、莫大小品製造、編物、組物製造、網繩、網類製造（葉製品）、麻絲維、絲返業、染色、捺染、漂白及絲布加工業、湯熨斗、浸拔、洗張、洗濯業、西洋洗濯業
- 十四、木、竹類ニ關スル製造業
木挽、屋根板製造、削物、木地、曲物製造、樽、桶類製造、建具、指物、木型、寄木、合板製造、漆器製造、箆、籠、行李類製造、疊表、真産類製造、疊職、葉、漆桿、棕櫚、經木細工、其他ノ竹木草蓼品製造
- 十五、飲食料品、嗜好品製造業
糖穀、製粉業、麵類、餅、湯葉、蒟蒻製造、豆腐製造、

- 十六、被服、身ノ廻リ品製造業
菓子、麵飽製造、砂糖類製造、麴製造、清酒製造、麥酒製造、其他ノ酒類製造、味噌、醬油製造、屠畜、肉類品製造、罐詰、罐詰製造、鹽乾魚介節類製造、海藻、其他ノ水産食料品製造
- 十七、土木建築業
土木建築請負業、土木建築ノ設計、測量等ニ關スル業、大工、左官、泥工、セメント工、煉瓦職、石工、屋根職、ペンキ、塗、其他ノ塗料塗職、土方、高職、潜水業、其他ノ土木建築ニ關スル業
- 十八、其他ノ工業
紙工業、皮革、骨、角、甲、羽毛品類製造業、製版、印刷製本業、學藝、娛樂、裝飾品製造業、瓦斯、電氣

十九、物品販賣業

及天然力利用ニ關スル業、其他ノ工業
穀類、粉類販賣、蔬菜、果物類販賣、魚介藻類販賣、
鳥獸肉類販賣、酒類、調味料、清涼飲料販賣、菓子、
麵類販賣、茶販賣、其他ノ飲食料品販賣、肥料販賣、
燃料販賣、木材、竹材販賣、石材其他ノ建築材料販賣、
建具、家具、指物類販賣、疊、蔴、荒物類販賣、陶磁
器、硝子、硝子品類販賣、地金、金屬器具販賣、機械、
車輛、農具類販賣、皮革、擬革、其製品販賣、織物、
被服類販賣、綿、絲類、編物、組物類販賣、紙、紙製
品、文房具、玩具、遊戲品販賣、圖書、新聞、雜誌、
其他ノ出版物ノ發行、販賣、小間物、唐物、履物雨具、
雜貨販賣、藥品、染料、顏料、香料等販賣、度量衡、
科學的機械器具、時計、貴金屬、寶石類販賣、外國貨
易商、古物西葬具商、其他ノ物品販賣

二十、媒介周旋業

賣買媒介業、周旋業、與信業

二十七、宗教ニ關スル業

神道ニ關スル業、佛教ニ關スル業、基督教ニ關スル業、
其他ノ宗教ニ關スル業

二十八、教育ニ關スル業

學校ニ勤務スル者、圖書館、博物館、動植物園等ニ勤
務スル者、其他ノ教育ニ關スル業

二十九、醫務ニ關スル業

醫業、齒科醫業、調劑業、産婆業、看護業、按摩、鍼
灸業、其他ノ醫療ニ關スル業、獸醫業、蹄鐵業

三十、法務ニ關スル業

裁判所ニ勤務スル者、辯護士業、特許辨理士業、執達
吏業、公證人業

三十一、其他ノ自由業

陸軍現役軍人、海軍現役軍人、新聞、雜誌、通信記者、
著述者、文藝家、畫家、彫刻家、音樂家、蒔繪業、寫
眞業、其他ノ藝術ニ關スル業、技藝、娛樂ニ關スル業、
學術、慈善、政治、社交、其他ノ團體ノ事務ニ従事ス

第十一編 警察 第七章 衛生 第十七款 統計及報告

二十一、金融保險業

銀行業、質屋業、貸金業、其他ノ金融業、生命保險業、
其他ノ保險業、物品貸貸業、倉庫業、其他ノ物品預リ
業

二十二、旅宿、飲食店、浴場業等

旅人宿、下宿業、料理店、飲食店、席貸業、遊戯興行
ニ關スル業、理髮業、理容業

二十三、其他ノ商業

郵便、電信、電話業

二十五、運輸業

鐵道業、軌道業、人力車業、乗用ノ自動車、馬車業、
其他ノ車馬運輸業、船舶運輸業、運輸取扱業、其他ノ
運輸ニ關スル業

二十六、官吏、公吏、雇傭

神宮、神職、雇傭、宮内官吏、雇傭、官吏、雇傭、公
吏、雇傭

ル者、代書業、其他ノ自由業

三十二、其他ノ有業者

日傭業、其他ノ有業者

三十三、家事使用人

三十四、收入ニ依リ生活スル者

小作料ニ依ル者、地代、家賃、有價證券ノ收入ニ依ル
者、恩給、年金、其他ノ收入ニ依ル者

三十五、無職業

准世帯ニ在ル學生、生徒、精神病院、感化院、慈善病
院等ニ在ル者、官公又ハ慈善團體等ノ救助ヲ受クル者、
在監人、其他ノ無職者

病類ノ部

第一類 傳染性病及全身病

腸窒扶私、發疹窒扶私、麻刺利亞、痘瘡、麻疹、猩
紅熱、百日咳、實布埤利亞及格魯布、流行性感冒、
虎列刺、赤痢、百斯篤、肺結核、結核性膈膜炎、腸
結核、爾他ノ臟器ノ結核、癩、瘰癧、爾他ノ傳染性

第十一編 警察 第七章 衛生 第十七款 統計及報告

五百四十八

病、二口蟲病、癌、癌以外ノ惡性新生物、價麻質斯性疾患、脚氣、糖尿病、爾他ノ榮養變調ノ疾患、爾他ノ全身病

第二類 神經系ノ疾患

急性及慢性アルコール中毒、腦膜炎、腦出血及腦軟化、妊娠産ニ因セサル子癩及小兒ノ搐搦、爾他ノ神經系ノ疾患

第三類 血行器ノ疾患

心臓ノ器質的疾患、爾他ノ血行器ノ疾患

第四類 呼吸器ノ疾患

急性氣管支炎、慢性氣管支炎、肺炎及氣管支肺炎、爾他ノ呼吸器ノ疾患

第五類 消化器ノ疾患

胃ノ疾患、下痢及腸炎、霍亂、十二指腸蟲病、蟲樣垂炎及腸骨高蜂窩織炎、脱腸及腸管癒塞、肝臟硬化、爾他ノ消化器ノ疾患

第六類 泌尿器及生殖器ノ疾患

腹膜炎(産ニ因スルモノヲ除ク)、腎臟炎及ブライト氏病、爾他ノ泌尿器及男子生殖器ノ疾患、婦人生殖器ノ疾患

第七類 妊娠及産

産熱、爾他ノ妊娠及産ニ因スル疾患

第八類 皮膚及運動器ノ疾患

第九類 畸形及幼年

畸形及先天的弱質、幼兒ニ固有スル疾患

第十類 老年

老衰

第十一類 外因ニ依ル死

自殺、中毒、爾他ノ外因ニ依ル死

第十二類 不明ノ診斷及不詳ノ原因

不明ノ診斷、原因不詳

第一號(用紙美濃紙)

(不執業者ハ朱書スルモノトス)

		大正何年何町(何市)現住人員表											男(女)				
職	業	大正	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	計
		十一年	十年	九年	八年	七年	六年	五年	四年	三年	二年	元年	明治	同	同	同	同
農	作																
畜	産																
蠶	業																
其	他ノ農業																
林	業及狩獵																
水	産																
採	礦冶金業																
土	石採取業																
蒸	業																
金	屬工業																

第十一編 警察 第七章 衛生 第十七款 統計及報告

五百四十九

其ノ他ノ農業	林業及狩獵	水産業	探礦冶金業	土石採取業	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	木竹類ニ關スル製造業	飲食料嗜好品製造業	被服身ノ廻リ品製造業	土木建築業	其ノ他ノ工業

物品販賣業	媒介周旋業	金融保險業	旅宿飲食店浴場業等	其ノ他ノ商業	通信業	運輸業	官吏公吏履傭	宗教ニ關スル業	教育ニ關スル業	醫務ニ關スル業	法務ニ關スル業	其ノ他ノ自由業	其ノ他ノ有業者	家事使用人

計	無職業者	收入ニ依リ生活スル者	職業	
			業	計
			職	業
			農	作
			畜	産
			蠶	業
			其ノ他ノ農	業
			林	業及狩獵
			水	産
			採	鑛冶金業
			土	石採取業
			窯	業
			金	屬工業
			機	械器具製造業
			化	學工業
			織	維工業
			木竹類ニ關スル	製造業
			飲食料品嗜好品	製造業
			被服身ノ廻リ品	製造業
			土	木建築業
			其ノ他ノ工業	
			物	品販賣業
			媒	介周旋業
			金	融保險業
			旅	宿飲食店浴場業等
			其ノ他ノ商業	
			通	信業
			運	輸業
			官	吏公吏雇傭
			計	
			明治	同
			二十	同
			五年	同
			二十	同
			四年	同
			二十	同
			三年	同
			二十	同
			二年	同
			二十	同
			一年	同
			二十	同
			九年	同
			十八	同
			年七	同
			年七	同
			年七	同
			年六	同
			年六	同
			年五	同
			年五	同
			年四	同
			年四	同
			年三	同
			年三	同
			年二	同
			年二	同
			年一	同
			計	

計	無職業者	收入ニ依リ生活スル者	職業	
			業	計
			職	業
			農	作
			畜	産
			蠶	業
			其ノ他ノ農	業
			林	業及狩獵
			水	産
			採	鑛冶金業
			土	石採取業
			窯	業
			金	屬工業
			機	械器具製造業
			化	學工業
			織	維工業
			木竹類ニ關スル	製造業
			飲食料品嗜好品	製造業
			被服身ノ廻リ品	製造業
			土	木建築業
			其ノ他ノ工業	
			物	品販賣業
			媒	介周旋業
			金	融保險業
			旅	宿飲食店浴場業等
			其ノ他ノ商業	
			通	信業
			運	輸業
			官	吏公吏雇傭
			計	
			明治	同
			二十	同
			五年	同
			二十	同
			四年	同
			二十	同
			三年	同
			二十	同
			二年	同
			二十	同
			一年	同
			二十	同
			九年	同
			十八	同
			年七	同
			年七	同
			年七	同
			年六	同
			年六	同
			年五	同
			年五	同
			年四	同
			年四	同
			年三	同
			年三	同
			年二	同
			年二	同
			年一	同
			計	

無職業者		計	文久二年	同元年	萬延元年	安政六年	同五年	同四年	同三年	同二年	同元年	嘉永元年	同五年	同四年	同三年	同二年	同元年	計
媒介周旋業																		
金融保險業																		
旅宿飲食店浴場業等																		
其他ノ商業																		
通信業																		
運輸業																		
官吏公吏雇傭																		
宗教ニ關スル業																		
教育ニ關スル業																		
警務ニ關スル業																		
法務ニ關スル業																		
其他ノ自由業																		
其他ノ有業者																		
家事使用人																		
收入ニ依リ生活スル者																		

無職業者		計	文久二年	同元年	萬延元年	安政六年	同五年	同四年	同三年	同二年	同元年	嘉永元年	同五年	同四年	同三年	同二年	同元年	計
職業者																		
農作業																		
畜産業																		
蠶業																		
其他ノ農業																		
林業及狩獵																		
水産業																		
探鑛冶金業																		
土石採取業																		
窯業																		
金屬工業																		
機械器具製造業																		
化學工業																		

水産業	探鑛冶金業	土石採取業	窯業	金屬工業	機械器具製造業	化學工業	纖維工業	木竹類ニ關スル製造業	飲食料品嗜好品製造業	被服身ノ廻リ品製造業	土木建築業	其ノ他ノ工業	物品販賣業	媒介周旋業

金融保險業	旅店飲食店浴場業等	其ノ他ノ商業	通信業	運輸業	官吏公吏雇傭	宗教ニ關スル業	教育ニ關スル業	醫務ニ關スル業	法務ニ關スル業	其ノ他ノ自由業	其ノ他ノ有業者	家事使用人	収入ニ依リ生活スル者	無職業業

計	職 業	同 年															
		天保三年 生	天保二年 生	元治元年 生	文政十年 生	文政十一年 生	同 年 生	同 年 生	同 年 生	同 年 生	同 年 生	同 年 生	同 年 生				
	農 業																
	畜 産 業																
	蠶 業																
	其ノ他ノ農業																
	林 業 及 狩 獵																
	水 産 業																
	採 鑛 冶 金 業																
	土 石 採 取 業																
	窯 業																
	金 屬 工 業																
	機 械 器 具 製 造 業																
	化 學 工 業																
	織 維 工 業																

計	職 業	同 年															
		天保三年 生	天保二年 生	元治元年 生	文政十年 生	文政十一年 生	同 年 生	同 年 生	同 年 生	同 年 生	同 年 生	同 年 生	同 年 生				
	木竹類ニ關スル製造業																
	飲食料嗜好品製造業																
	被服身ノ廻リ品製造業																
	土 木 建 築 業																
	其ノ他ノ工業																
	物 品 販 賣 業																
	媒 介 周 旋 業																
	金 融 保 險 業																
	旅宿飲食店浴場業等																
	其ノ他ノ商業																
	通 信 業																
	運 輸 業																
	官吏公吏雇傭																
	宗教ニ關スル業																
	教育ニ關スル業																

計	無職業	收入ニ依リ生活スル者	家事使用人	其ノ他ノ有業者	其ノ他ノ自由業	法務ニ關スル業	醫務ニ關スル業	教育ニ關スル業	宗教ニ關スル業	官吏公吏雇傭	運輸業	通信業	其ノ他ノ商業	旅宿飲食店浴場業等

備考

- 一、本表ハ別記職業分類ニ照シ正確ニ調査記入スルモノトス
- 一、生年別ハ其ノ調査ノ年ヲ首トシ大正、明治、慶應、元治、文久、萬延、安政、嘉永、弘化、天保、文政、享和ニ溯リテ年號何年生ト列記シ十五年目毎ニ小計スルモノトス
- 一、人員ハ年末其ノ土地ニ現住スル人員(本籍者ト雖他ニ出住ハルモノハ之ヲ除キ本籍者ニ非ラサルモ入住スル者ハ之ヲ算入ス)ヲ生年別及職業別、職業者、不職業者別ニ據リ計記スルモノトス
- 一、執業者トハ業務主竝ニ家族又ハ被用者ニシテ實際業務ニ従事スル者ヲ謂フ而シテ世帯主ノ業務ニ不拘各自ノ従事スル業務ノ狀態ニヨリ相當欄ニ記入スヘシ例ヘハ一世帯内ノ一人ハ物品販賣業ニ他ノ一人ハ官吏ニ従事スル場合ハ物品販賣業欄ニ、官吏公吏雇傭欄ニ一ト記入スルカ如シ
- 一、職業二種以上ヲ營ムモノハ其ノ主ナル業務ノ一方ヲ記スルモノトス
- 一、不職業者トハ本業務ニ従事セサル者ヲ謂フ例ヘハ一世帯内ノ家族ニシテ専ラ家事上ノ雑事ニ關係スル者及老幼者(學生ヲ含ム)ノ如キ者ヲ謂フ而シテ是等ノ者ハ世帯主ノ業務ノ狀態ニ依リ相當欄ニ記入スルモノトス
- 一、雇人ニシテ専ラ家事上ノ雑事ニ關係スル者ハ家事使用人ノ欄ニ記入スルモノトス
- 一、本表ハ男女ニ區別シ別表ニ調製スルモノトス

第十一編 警察 第七章 衛生 第十七款 統計及報告
 第二號(用紙美濃紙)

五百七十
 (女ノ數ハ朱書スルモノトス)

大正何年何町(何市)結婚、離婚、配偶者表

種別	農						作			畜			産			蠶			業			計				
	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚		再婚以上	離婚	現在夫婦	
																										女
十五年以上																										
十一年以上																										
一年以上																										
計																										

種別	其ノ他ノ業			農			林業及獵			水産			採礦			冶			金			計					
	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚		再婚以上	離婚	現在夫婦		
																										女	男
十五年以上																											
十一年以上																											
一年以上																											
計																											

第十一編 警察 第七章 衛生 第十七款 統計及報告

五百七十一

製造業 化學工業 纖維工業 木製竹類 關二類 不業 飲食製

初婚	現在夫婦		離婚	再婚以上		初婚	現在夫婦		離婚	再婚以上		初婚	現在夫婦		離婚	再婚以上		初婚	現在夫婦		離婚	再婚以上		初婚	現在夫婦		離婚		
	女	男		女	男		女	男		女	男		女	男		女	男		女	男		女	男		女	男		女	男

第十一編 警察 第七章 衛生 第十七款 統計及報告

土石採取業 窯業 金屬工業 機械器具

初婚	現在夫婦		離婚	再婚以上		初婚	現在夫婦		離婚	再婚以上		初婚	現在夫婦		離婚	再婚以上		初婚	現在夫婦		離婚	再婚以上		初婚	現在夫婦		離婚			
	女	男		女	男		女	男		女	男		女	男		女	男		女	男		女	男		女	男		女	男	女

第十一編 警察 第七章 衛生 第十七款 統計及報告

食飲宿旅業			保險業			金融業			周旋業			煤介業			物品販賣業		
初婚	再婚以上	離婚	初婚	再婚以上	離婚	初婚	再婚以上	離婚	初婚	再婚以上	離婚	初婚	再婚以上	離婚	初婚	再婚以上	離婚
女	男	女	女	男	女	女	男	女	女	男	女	女	男	女	女	男	女

第十一編 警察 第七章 衛生 第十七款 統計及報告

工他其			建築業			土木			製造業			被服業			嗜好業			料品業			
初婚	再婚以上	離婚	初婚	再婚以上	離婚	初婚	再婚以上	離婚	初婚	再婚以上	離婚	初婚	再婚以上	離婚	初婚	再婚以上	離婚	初婚	再婚以上	離婚	
女	男	女	女	男	女	女	男	女	女	男	女	女	男	女	女	男	女	女	男	女	

第十一編 警察 第七章 衛生 第十七款 統計及報告

關スル業			其ノ他ノ業			自由業			其ノ他ノ業			有業者			家事			使用者			人		
再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	

出生			入活			ニス			依ル			リ者			無			職			業			合			計		
再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	初婚	再婚以上	離婚	現在夫婦	計		
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計		

備考
 一、本表ハ其ノ土地ノ現住者(本籍者ト雖他へ出住スル者ハ之ヲ除キ本籍ノ本年自一月間ノ事實ヲ職業別ニ執業者ハ世帯主ノ業務ノ状態ニ據リ各該欄ニ算入スヘシ)年齢別及男女別ニ計記スルモノトス

第十一編 警察 第七章 衛生 第十七款 統計及報告

五百七十九

總計

備考

- 一 豫算金額ハ本年度豫算金收入額ヲ記入シ且金種區別額ヲモ記入スルモノトス
- 一 實出額毎費目本年度決算額ヲ記入スルモノトス

(別紙)
第十一號(用紙美濃紙)

區 新 規 許 可 年 末 現 在	賣藥營業者調査表 (何年)		郡(市)役所	
	製 造 又 ハ 輸 入 數	人 員 方 數	詩 賣 人 員	行 商 人 員

(別紙)
第十二號(用紙美濃紙)

埋火葬及看護婦(夫)調査表		埋火葬調 (何年)		役場(役所)名	
墳 墓 地 箇 所 數	同 上 反 別	火 葬 場 數	土 葬 人 員	火 葬 人 員	火 葬 人 員

一 墳墓地箇所數、反別、火葬場數ハ年末現在土、火葬人員ハ一年中ノ事實ヲ記入スルモノトス而シテ其ノ人員ハ認許證ヲ附與シタル地方ニ於テ記入スヘシ

年 末 現 在	看 護 婦(夫)調 (何年)		計
	男	女	

第十三號(用紙美濃若クハ半紙)

明治何年何郡衛生擔任郡吏及醫姓名表						
專 兼 ノ 別	貫 族	官 姓	名	郡 吏		警 名
				貫 族	年 給 氏	

年 齡	小 計		十 年		九 年		八 年		七 年		六 年		小 計		五 年		四 年		三 年		二 年		
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
第一類 傳染性全病及身病																							
第二類 神經系ノ疾患																							
第三類 血行器ノ疾患																							
第四類 呼吸器ノ疾患																							
第五類 消化器ノ疾患																							
第六類 泌尿器及生殖器ノ疾患																							
第七類 妊娠及產																							
第八類 皮膚及運動器ノ疾患																							
第九類 畸形及幼年																							
第十類 老年																							
第十一類 外因ニ依ル死																							
第十二類 不明ノ診斷及原因不詳ノ原因																							
合計																							
第一類 肺結核ノ内																							

年 齡	小 計		十 年		九 年		八 年		七 年		六 年		小 計		五 年		四 年		三 年		二 年		
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
第一類 傳染性全病及身病																							
第二類 神經系ノ疾患																							
第三類 血行器ノ疾患																							
第四類 呼吸器ノ疾患																							
第五類 消化器ノ疾患																							
第六類 泌尿器及生殖器ノ疾患																							
第七類 妊娠及產																							
第八類 皮膚及運動器ノ疾患																							
第九類 畸形及幼年																							
第十類 老年																							
第十一類 外因ニ依ル死																							
第十二類 不明ノ診斷及原因不詳ノ原因																							
合計																							
第一類 肺結核ノ内																							

年 齡	小 計		三十一年		三十年		二十九年		二十八年		二十七年		二十六年		小 計		二十五年		二十四年		二十三年		二十二年		
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
第一類																									
傳染性 身病及全																									
神經系 ノ疾患																									
血行器 ノ疾患																									
呼吸器 ノ疾患																									
消化器 ノ疾患																									
泌尿器 及生殖器 ノ疾患																									
妊娠及 產																									
皮膚及 運動器 ノ疾患																									
畸形及 幼年																									
老年																									
依外因 死																									
不明 ノ原因																									
合計																									
肺結核 ノ内																									

年 齡	小 計		三十二年		三十三年		三十四年		三十五年		小 計		三十六年		三十七年		三十八年		三十九年		四十年		小 計		
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
第一類																									
傳染性 身病及全																									
神經系 ノ疾患																									
血行器 ノ疾患																									
呼吸器 ノ疾患																									
消化器 ノ疾患																									
泌尿器 及生殖器 ノ疾患																									
妊娠及 產																									
皮膚及 運動器 ノ疾患																									
畸形及 幼年																									
老年																									
依外因 死																									
不明 ノ原因																									
合計																									
肺結核 ノ内																									

年 齡	小計		四十六年		四十七年		四十八年		四十九年		五十年		五十二年		五十四年		五十六年		五十八年		六十年		小計		
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
第一類																									
傳染性 身病及全 ノ疾患																									
第二類																									
神經系 ノ疾患																									
第三類																									
血行器 ノ疾患																									
第四類																									
呼吸器 ノ疾患																									
第五類																									
消化器 ノ疾患																									
第六類																									
泌尿器 及生殖器 ノ疾患																									
第七類																									
妊娠及 分娩																									
第八類																									
皮膚及 運動器 ノ疾患																									
第九類																									
畸形及 幼年																									
第十類																									
老年																									
第十一類																									
外因性 死亡																									
第十二類																									
不明原因 ノ疾患																									
合計																									
肺結核 ノ内類																									

年 齡	小計		五十二年		五十四年		五十六年		五十八年		六十年		小計	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
第一類														
傳染性 身病及全 ノ疾患														
第二類														
神經系 ノ疾患														
第三類														
血行器 ノ疾患														
第四類														
呼吸器 ノ疾患														
第五類														
消化器 ノ疾患														
第六類														
泌尿器 及生殖器 ノ疾患														
第七類														
妊娠及 分娩														
第八類														
皮膚及 運動器 ノ疾患														
第九類														
畸形及 幼年														
第十類														
老年														
第十一類														
外因性 死亡														
第十二類														
不明原因 ノ疾患														
合計														
肺結核 ノ内類														

年 齡	小計		七十年		六十九年		六十八年		六十七年		六十六年		小計	六十五年		六十四年		六十三年		六十二年		
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男		女	男	女	男	女	男	女	男	
第一類 傳染性 病及全 身病																						
第二類 神經系 ノ疾患																						
第三類 血行器 ノ疾患																						
第四類 呼吸器 ノ疾患																						
第五類 消化器 ノ疾患																						
第六類 泌尿器 及生殖 器ノ疾 患																						
第七類 妊娠及 產																						
第八類 皮膚及 運動器 ノ疾患																						
第九類 畸形及 幼年																						
第十類 老年																						
第十一類 外因ニ 依ル死																						
第十二類 不明ノ 診斷及 原因																						
合計																						
肺結核 ノ内																						

年 齡	小計		八十年		七十九年		七十八年		七十七年		七十六年		小計	七十五年		七十四年		七十三年		七十二年		
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男		女	男	女	男	女	男	女	男	
第一類 傳染性 病及全 身病																						
第二類 神經系 ノ疾患																						
第三類 血行器 ノ疾患																						
第四類 呼吸器 ノ疾患																						
第五類 消化器 ノ疾患																						
第六類 泌尿器 及生殖 器ノ疾 患																						
第七類 妊娠及 產																						
第八類 皮膚及 運動器 ノ疾患																						
第九類 畸形及 幼年																						
第十類 老年																						
第十一類 外因ニ 依ル死																						
第十二類 不明ノ 診斷及 原因																						
合計																						
肺結核 ノ内																						

年 齡	小 計		八十五年		八十四年		八十五年		八十六年		八十七年		八十八年		八十九年		九十年		九十年		
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
第一類																					
第二類																					
第三類																					
第四類																					
第五類																					
第六類																					
第七類																					
第八類																					
第九類																					
第十類																					
第十一類																					
第十二類																					
合計																					
第一類																					
肺結核																					

年 齡	小 計		九十二年		九十三年		九十四年		九十五年		九十六年		九十七年		九十八年		九十九年		九十九年		
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
第一類																					
第二類																					
第三類																					
第四類																					
第五類																					
第六類																					
第七類																					
第八類																					
第九類																					
第十類																					
第十一類																					
第十二類																					
合計																					
第一類																					
肺結核																					

合計	年齢不詳		小計							
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男

備考

- 一、本表ハ埋(火)葬認許證ヲ付與シタル地ノ所轄市役所町村役場ニ於テ埋(火)葬認許證申請書及之ニ添附セル醫師ノ死亡診断書、死體檢案書等ニ就キ調査掲記シ郡役所ハ所轄各町村役場ヨリ進達セル表ニ就キ調査掲記スヘシ但在監死亡者ハ表中ニ算入セス欄外ニ何年男(女)何病何人ト記スヘシ
- 一、死體ノ棄兒ハ欄外ニ其ノ男女年齢ヲ記載スヘシ
- 一、一年ノ項ニハ滿一年マテ二年ノ項ニハ一年一箇月以上滿二年マテノ者ヲ掲記スヘシ以下倣之而シテ年齢五年目毎ニ小計スルモノトス

第十六號(用紙美濃紙)

(女ノ數ハ朱書スルモノトス)

大正何年何町(何郡市)死亡者職業別表

職業	農作業		畜産業		蠶業		其ノ他ノ農業		林業及狩獵		水産業		採礦冶金業		土石採取業		窯業		金屬工業	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
職業別	第一類 傳染性身病及全																			
	第二類 神經系ノ疾患																			
	第三類 血行器ノ疾患																			
	第四類 呼吸器ノ疾患																			
	第五類 消化器ノ疾患																			
	第六類 泌尿器及生殖器ノ疾患																			
	第七類 妊娠及産																			
	第八類 皮膚及運動器ノ疾患																			
	第九類 畸形及幼年																			
	第十類 老年																			
	第十一類 外因ニ依ル死亡																			
	第十二類 不明ノ原因																			
合計																				
肺結核ノ内																				

備 官 吏 公 吏 雇	運 輸 業	通 信 業	業 其 他 ノ 商	旅 宿 飲 食 店	媒 介 周 旋 業	物 品 販 賣 業	業 其 他 ノ 工	土 木 建 築 業	被 服 身 ノ 廻	好 品 製 造 業	飲 食 料 品 ノ 製	木 竹 類 ノ 製	織 維 工 業	化 學 工 業	機 械 器 具 製 造	業	造業	
																	女	男
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

合 計	無 職 業	生 活 ス ル 者	收 入 ニ 依 リ	家 事 使 用 人	業 者	其 他 ノ 有	由 業	其 他 ノ 自	ル 業	法 務 ニ 關	ル 業	醫 務 ニ 關	ル 業	教 育 ニ 關	ル 業	宗 教 ニ 關	ス	
																	女	男
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

備考

一、本表ハ埋(火)葬認許證ヲ付與シタル地ノ市役所、町村役場ニ於テ埋葬認許證及之ニ添附セル醫師ノ死亡
 診断、死體検査書ニ就キ調査掲記シ郡役所ハ所轄町村役場ヨリ進達セル表ニ就キ調査計記スヘシ但在監
 死亡者ハ表中ニ算入セス欄外ニ何病死男(女)何人ト記スヘシ

一、不執業者ハ其ノ世帯主ノ業務ノ状態ニ據リ各相當欄ノ職業ニ算入スヘシ

- 一 掃除區劃内ノ戸數ハ年末現在ヲ掲クヘシ
- 二 本様式中施行規則第二十一條ニ基キ土地ノ占有者ヲシテ處分セシムル戸數ハ年末現在ヲ掲クヘシ
- 三 屎尿搬出量ノ欄ニハ市ニ於テ屎尿ノ處分ヲナスモノニ限り記載スルモノトス

第八章 雜

●死體解剖出願方

(明治三十二年三月十日)
(縣令第十九號)

醫學研究上死屍ニ就キ患部ノ解剖ヲ爲サントスルトキハ死者最近ノ親戚及主治醫連署ヲ以テ所轄警察署若クハ警察分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

●死屍ノ解剖ヲ許可シタルトキ縣廳へ報告方

(明治三十二年三月十日)
(訓令甲第二十四號)

警察署
同 分署

本年三月縣令第十九號ニ依リ死屍ノ解剖ヲ願出ツルモノアルトキハ調査ノ上差支ナシト認ムルモノハ剖製後總理シテ原體ニ復シ不都合ナキ様取扱フヘキ旨ヲ指示シ之ヲ許可シ而シテ死者住所氏名年齢病名及主治醫ノ住所姓名ヲ記シ直ニ縣廳ニ

第十一編 警察 第八章 雜

報告スヘシ

●腸内寄生蟲驅除費補助規程

(大正十年四月五日)
(縣令第三十八號)

腸内寄生蟲驅除費補助規程左ノ通定ム

腸内寄生蟲驅除費補助規程

- 第一條 市町村ニ於テ人體腸内寄生蟲驅除ノ爲支出シタル費用ノ内藥品費ニ限り其ノ支出金額三分ノ一以内ヲ經費ヨリ補助ス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ其ノ支出金額ノ全部マテヲ補助スルコトアルヘシ
- 第二條 前條ノ支出金額トハ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ
- 第三條 寄生蟲驅除費ニシテ其ノ支出金額適當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ該査定額ニ對シテ補助ス

附記

本令ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス

腸内寄生蟲驅除費補助申請手續

(大正十年四月五日訓令第十一號)

郡役所
市役所
町村役場

腸内寄生蟲驅除費補助申請手續左ノ通之ヲ定ム

腸内寄生蟲驅除費補助申請手續

第一條 腸内寄生蟲驅除費補助申請書ハ別記第一號書式ニ依

(第一號樣式)

大正何年度腸内寄生蟲驅除費補助申請書

一金 何 程

内 譯

補助申請額
何市町村

リ當該年度經過後二十日以内ニ之ヲ提出スヘシ

第二條 支出金額確定ノ見込立テタルトキハ年度内ト雖モ其ノ支出金額ニ對シ補助ヲ申請スルコトヲ得

第三條 補助申請書ニハ別記第二號書式ニ依ル支出明細書並補助規程第二條ノ規定ニ依ル控除金額内譯書ヲ添付ス

第四條 町村ヨリ提出スル補助申請書ハ所轄郡役所ニ送

ハシ

第五條 郡役所ニ於テ前條ノ申請書ヲ受付タルトキハ速

査ヲ遂ク不都合ナシト認ムルモノハ直ニ進達スヘシ

費目	支出金額	控除金額	殘額	補助申請額	補助申請額
腸内寄生蟲驅除費					

右ノ通相違無之候ニ付補助金下付相成度此段申請候也

年 月 日

三重縣知事宛

何市町村長 氏

名

(第二號樣式)

大正何年度腸内寄生蟲驅除費支出明細書

支拂命令番號	種則	員數	單價	金額	債主ノ住所	摘	要
計							

右支出證憑書ト對照シ其ノ相違ナキコトヲ證明ス

年 月 日

第十一編 警察 第八章 雜

市町村長 氏

名

六百十七

備考

- 一、本書ハ各債主ノ領收書毎ニ其ノ要項ヲ摘録シ若シ一領收書ニ數種ノ品目等ヲ列記シアレハ其ノ種類毎ニ記入スルモノトス
- 二、摘要欄ニハ購入年月日及投藥人員等ヲ記入スルモノトス

●衛生事業費補助規程

(大正八年三月二十一日) 縣令第二十五號

附則 大正一二年三月縣令第二六號改正

衛生事業費補助規程左ノ通之ヲ定ム

衛生事業費補助規程

- 第一條 公共團體、公益團體若ハ私人ノ施設スル左記事業ニシテ必要ト認ムルトキハ別ニ規定スル場合ヲ除クノ外其ノ事業費ニ對シ三分ノ一以內ノ補助金ヲ交付ス但シ支出ニ伴フ收入又ハ補助金、寄附金等アルトキハ其ノ額ヲ控除シタル殘額ニ對シテ補助ス
- 一 飲料水ノ改良 明治三十三年法律第九號水道條例ニ依ラサルモノ

- 二 衛生博覽會、衛生展覽會等ノ開設
 - 三 肺結核豫防ニ關スル施設
 - 四 產婆養成ニ關スル施設
 - 五 其ノ他ノ衛生事業ニシテ特ニ必要ト認メタルモノ
- 第二條 前條ニ依リ補助ヲ受ケムトスル者ハ豫メ左記事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ
- 一 施設事業ノ種類及目的
 - 二 施設方法 仕様書、設計書、圖面等
 - 三 收支豫算
- 調査上必要ト認ムルトキハ前項ノ外尙書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ
- 第三條 補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニシテ前條申請事項ヲ變更セムトスルトキハ豫メ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ

●狂犬病豫防ニ關スル件

(大正十二年三月六日) 縣令第七號

附則 大正一二年四月縣令第一四號、同年五月同第一九號改正

狂犬病豫防ノ爲家畜傳染病豫防法第十六條ニ依リ大阪府、京都府及愛知縣、和歌山縣、奈良縣ヲ發シ又ハ通過シタル犬(狛ヲ)ノ移入ヲ停止ス但シ狂犬病豫防液ノ注射ヲ受ケタル犬ニシテ注射後六箇月ヲ經過セサルコトヲ官公署又ハ獸醫ニ於テ證明シ其ノ證ヲ有スルモノ若ハ獸醫ノ健康證明書ヲ有スルモノ及汽車、船舶積込ノ儘通過スルモノハ此ノ限ニ在ラス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●狂犬病患者及獸類咬傷ニ關スル届出ノ件

(明治三十五年一月二十一日) 縣令第七號

狂犬病患者及獸類咬傷ニ關スル届出ノ件左ノ通定ム

受クヘシ

- 第四條 補助金ハ事業終了後一ヶ月以內ニ其ノ施設事業成績書及收支決算書ヲ提出シタル後ニ於テ之ヲ交付ス但シ支出金額適當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シテ補助金ヲ交付ス
 - 第五條 補助金交付ノ指令ヲ與ヘタル者ト雖其ノ事業ヲ中止シタルトキハ之ヲ交付セサルコトアルヘシ
 - 第六條 補助ハ物品ヲ以テ交付スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ物品ノ代價ニ依リ金額ニ換算ス
 - 第七條 本令ニ依リ町村、公益團體若ハ私人ヨリ知事ニ提出スル書類ハ凡テ郡市役所ヲ經由スヘシ
- 附則
- 本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

狂犬病患者及獸類咬傷ニ關スル届出ノ件

第一條 醫師狂犬病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ別記第一號様式ニ依リ直ニ當廳ニ届出ヘシ
前項ノ患者轉歸シタルトキハ別記第二號様式ニ依リ速ニ届出ヘシ

本條ノ届書ハ其ノ患者、轉歸者又ハ死體所在地ノ警察官署ヲ經由スヘシ

第二條 狂犬病又ハ其ノ疑アル獸類ニ咬傷セラレタル者アルトキハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケ又ハ直ニ口頭若ハ書面ヲ以テ其ノ所在地若ハ咬傷ヲ受ケタル地ノ警察官署、巡查駐在所、巡查派出所又ハ巡行ノ警察官吏ニ届出ヘシ

前項ノ届出ハ一般民家ニ在リテハ其ノ戶主若ハ之ニ代ハルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場合ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理人ヨリ之ヲ爲スヘシ

第三條 第一條第二條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

(別記)

第一號様式

狂犬病患者診斷(死體檢案)届

住所族稱職業

氏名

年齢

一被咬傷ノ月日及場所

一被咬傷ノ部位、局部ノ症候及當時ノ處置(死體檢案ノ場當時ノ處置ハ記載ニ及ハス)

一發病月日

一死後經過ノ時數(死體檢案ノ場合ニ限ル)

一診斷(檢案)ノ月日

右及御届候也

住所

醫師氏名

年月日
知事宛

第二號様式

狂犬病患者轉歸届

住所族稱職業

氏名

年齢

明治何年何月何日全治(死亡)

右發病處ニ御届申候處頭書之通轉歸候條此段及御届候也

住所

醫師氏名

知事宛

年月日

警察署
同分署

●狂犬病患者及獸類咬傷ニ關スル届出アリタルトキ處置方

(明治三十五年一月二十一日)
(訓令甲第六號)

明治三十五年(一月)三重縣令第七號及其ノ他ノ事由ニヨリ其ノ部内ニ狂犬病患者發生シタルカ若ハ狂犬病又ハ其ノ疑アル獸類ニ咬傷セラレタル者アルヲ知リタルトキハ直ニ現場ニ出張シ左ノ各項ニ依リ相當處置スヘシ

一被咬傷者未タ醫診ヲ受ケ居ラサルトキハ速ニ之ヲ受ケシムルコト

一被咬傷者若ハ咬傷シタル獸類現ニ他ノ部内ニ在ルトキハ速ニ所轄警察官署ニ照知シ相當ノ措置ヲ求ムヘキコト

一咬傷ニ關スル事項ハ左ノ様式ニ依リ一箇月分ヲ調査シ翌月十日限り當廳ニ差出スヘシ

明治三十年		狂犬病報告表		何警察署(分署)	
發病地名	獸ノ種類	及牝牡ノ頭數別	被咬傷人員	被咬傷者ノ處置	備考
何郡何町(村)	野犬	牝牡	三	創部ヲ治療シ豫防接種ヲ行フ	咬傷シタル犬ハ繫留シ置キ其ノ經過ニ依リ狂犬病ナルヲ確ム或ハ直ニ撲殺シ剖檢ノ結果狂犬病ト診定ス等
何市	猫	牝牡	—	—	—

本行以下ノ文字ハ總テ朱書スヘシ

●牛馬商馬車借馬牛馬宿營業者厩舎取締規則

(明治十五年二月九日) (甲第三十四號)

牛馬賣買商馬車借馬牛馬宿營業厩舎取締規則左之通相定候條 此旨布達候事

牛馬商馬車借馬牛馬宿營業ノ者厩舎取締規則

第一條 牛馬賣買商馬車借馬牛馬宿等營業スル者ハ厩舎ノ位置及隣地ノ繪圖ヲ添ヘ郡役所ヘ願出ヘシ

第二條 市街及人家稠密ノ地ニ於テハ前條ノ願書ハ厩舎所在地ノ四隣連署スヘシ

第三條 厩舎ハ專ハラ清潔ヲ要シ掃除ヲ怠タラス勉メテ臭氣ヲ防遏シ盛夏炎熱ノ候又ハ人畜流行病アルトキハ殊ニ注意スヘシ

第四條 繫留ノ牛馬病ニ罹ラス速ニ醫師診斷ヲ請ヒ若シ斃死スルトキハ其厩舎ニ相當ノ清潔法ヲ行フヘシ

第五條 但シ本條ノ場合ニ於テハ速ニ所屬衛生委員ニ届出ツヘシ

第五條 惡病流行ニ際シ豫防上障害アリト看認ルトキハ厩舎

又ハ牛馬ヲ他ニ移轉セシムルコトアルヘシ

●理髮業取締規則

(明治三十七年十一月十五日) (縣令第六十號)

明治三十四年(一月)三重縣令第五號理髮業取締規則左ノ通改正シ明治三十八年一月一日ヨリ施行ス

理髮業取締規則

第一條 理髮營業ヲ爲サムトスル者ハ營業所ノ位置及住所ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

營業者轉居、改氏名、廢業又ハ死亡シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ死亡ニ付テハ戶籍法第二百二十六條ノ届出義務者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條 皮膚病其ノ他傳染性疾患アル者ハ就業シ若ハ就業セシムルコトヲ得ス

第三條 營業所ハ常に清潔ナラシメ毛髮等ハ一定ノ容器ニ收

第十一編 警察 第八章 雜

メ散亂セシムヘカラス

第四條 營業者ハ理髮ヲ了リタル毎ニ石鹼ヲ以テ其ノ手ヲ洗淨スヘシ

第五條 客ニ供用スル椅子ノ凭倚部分ハ清潔ナル白布ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第六條 客ニ供用スル手拭、頭卷、被布ノ類ハ常に清潔ナラシムヘシ

第七條 皮膚病其ノ他傳染性疾患アル者ヲ理髮シタルトキハ石炭酸水(約三十三倍)又ハ「クレゾール」水(「クレゾール」六分水九)ヲ以テ其ノ手ヲ消毒シタル後清水ヲ以テ洗滌シ其ノ病者ニ供用シタル手拭、頭卷、被布ノ類ハ左記方法中ノ一ニ依リ直ニ消毒スヘシ

一 三十分間以上煮沸スルコト

二 三十分間以上攝氏百度以上ノ蒸汽ニ觸レシムルコト

三 石炭酸水(二十倍)又ハ「クレゾール」水(「クレゾール」九十分)二十分間以上浸漬スルコト

第八條 剃刀、剪刀「ジャツキ」櫛、刷毛鬚直シ用布片ノ類ハ

毎客ノ他用ヲ了リタル後直ニ左記方法中ノ一ニ依リ消毒スヘシ

一 第七條第一號第二號ノ方法ニ依ルコト

二 石炭酸水(約三十三倍)「フオルマリン」水(百分中一分ムアルデヒツ)「デシンフエクトール」液(二十倍)「クレゾール」液(二十倍)「クレゾール」水(鹼液六分水九十分)又ハ「アイセル」液(五十倍)ヲ以テ丁寧ニ洗滌シ更ニ清水ヲ以テ洗淨スルコト

三 亞爾簡保兒ニ浸シ直ニ引上ケ點火スルコト

四 熱曹達液(二十倍)ニ浸漬シ冷後清水ヲ以テ洗淨スルコト

前項以外ノ方法ニ依リ消毒セムトスル者ハ其ノ方法ヲ詳記シ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ申請シ認可ヲ受ケヘシ

第九條 營業上ニ付テハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第十條 警察官吏ハ營業所ニ臨檢スルコトアルヘシ

第十一條 本則ハ營業所外ニ於テ就業スルトキニモ亦之ヲ適用ス

第十二條 營業者ハ所轄警察官署ノ管轄區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リテハ同一警察官署ノ管轄區域内ニ數個ノ組合ヲ設クルコトヲ妨ケス

組合ハ規約ヲ設ケ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケヘシ其ノ改正増補セムトスルトキ亦同シ

第十三條 營業者ハ營業所所在地所屬(營業所ヲ有セサル者屬)ノ組合ニ加入シ其ノ規約ヲ遵守スヘシ

第十三條ノ二 營業者本則ニ依リ處罰セラレ尙ホ改悛ノ狀ナシト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ營業ノ禁止又ハ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 第一條乃至第八條第十三條又ハ第十三條ノ二ノ命令ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

第十五條 從來ノ營業者ニシテ引續營業セムトスル者ハ明治三十七年十二月三十一日マテニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ津市、四日市市、桑名町、松坂町、宇治山田町及上野町ノ營業者(女髮結業)ハ此ノ限ニ在ラス

大正十五年五月二十日印刷
大正十五年六月一日發行

定價金貳拾圓

著者 啓文社編輯部

岐阜縣本巢郡北方町

株式會社啓文社

代表者 村田憲治

印刷所 大阪市南區東賑町 株式會社啓文社工場



發行所

(本社) 岐阜縣本巢郡北方町
電話二六・振替東京二一五一
(工場) 大阪市南區東賑町一七番八

株式會社 啓文社

終